



# 夏の お義父さん

—前編—

「ただお義父さんに元気になってほしくって…  
私は、悪い妻…母…そして嫁です…」

18

フルカラーコミック40P



ただいまー

おじいちゃん  
来たよー!

ガラッ



お、お世話に  
なります…

長旅お疲れさん、

ヒロトも

ひかりさんも

疲れただろう!

さあ上がって上がって!

オヤジ焼けてるね  
畑?



おおー  
待ったぞ  
ユウト!!

ワハハ、  
去年よりずっと  
重うなったな!!

なんとかかして…  
お義父さんを…

ひ…  
ひかりさん  
……？

え…

…私が横にいても  
淋しいですか？  
もうなんだか…  
かわいそうで…  
かわいそうで…

きやり…

ねえお義父さん…何か  
私にできることは  
ありませ…

お義父  
…さん？

ありがとう  
ひかりさん…  
そうか…  
そんなにまで  
わしのことを…  
ありがとう…

それならわしも  
少しは立ち直る  
努力を  
せんにゃあな…

え

ちよっ…

グス…

ありがとう  
ひかりさん…  
きっかけをくれて  
本当に感謝するよ



んむっんんっ…  
や…め…

…  
誤解です  
お義父さん!



ま、待ってください！  
そういうことじゃないんです！  
私はお義父さんに  
元気を取り戻してほしかっただけで…！



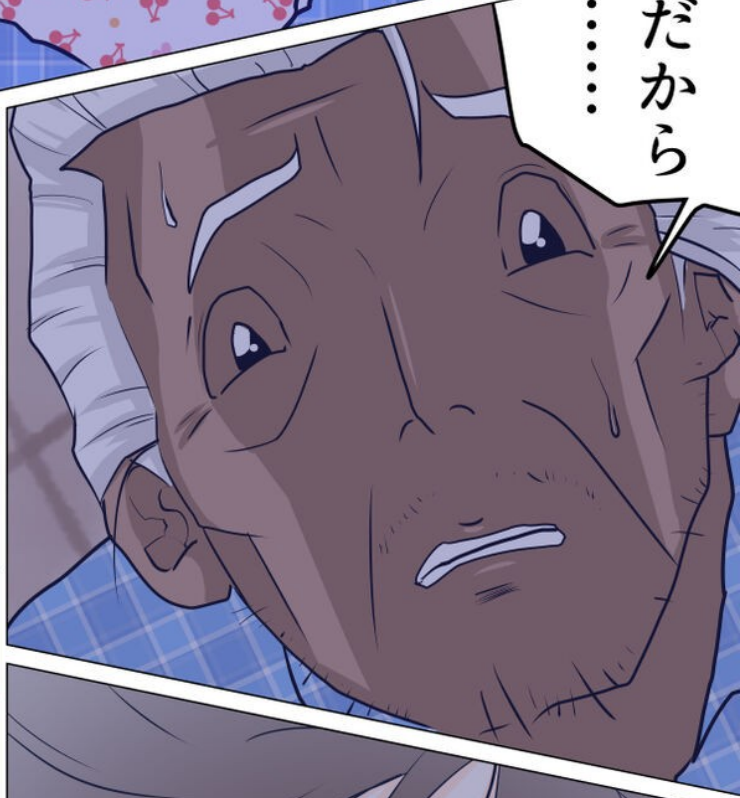
や、約束…

約束する！！

もう嘆くのをやめて前を向いて  
生きていくと！！それにひかりさんの  
今の幸せを奪うようなことは決してせん！！だから…



だから  
……



生きていく  
ために…



この人は今  
私を必要としてる

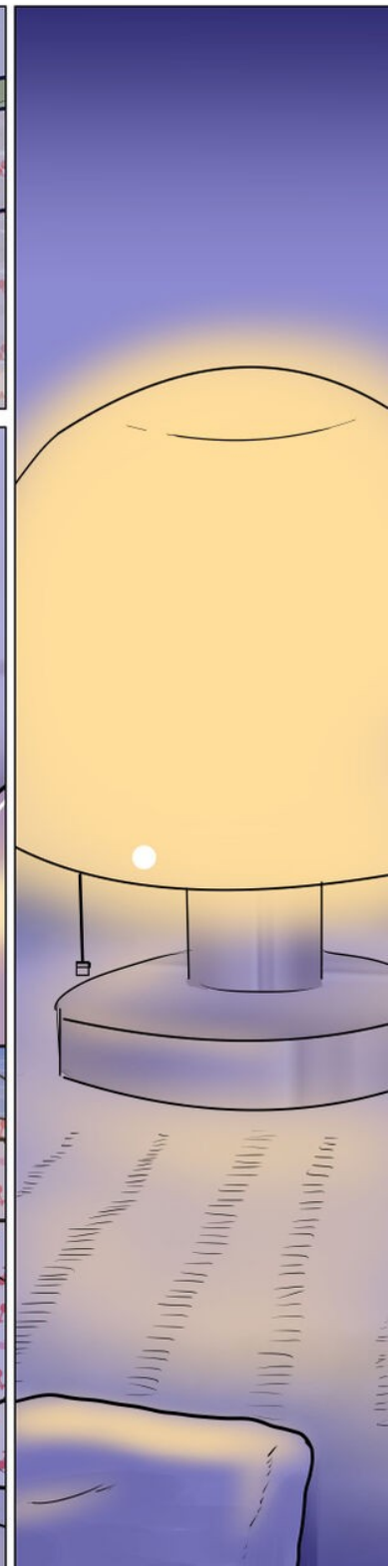
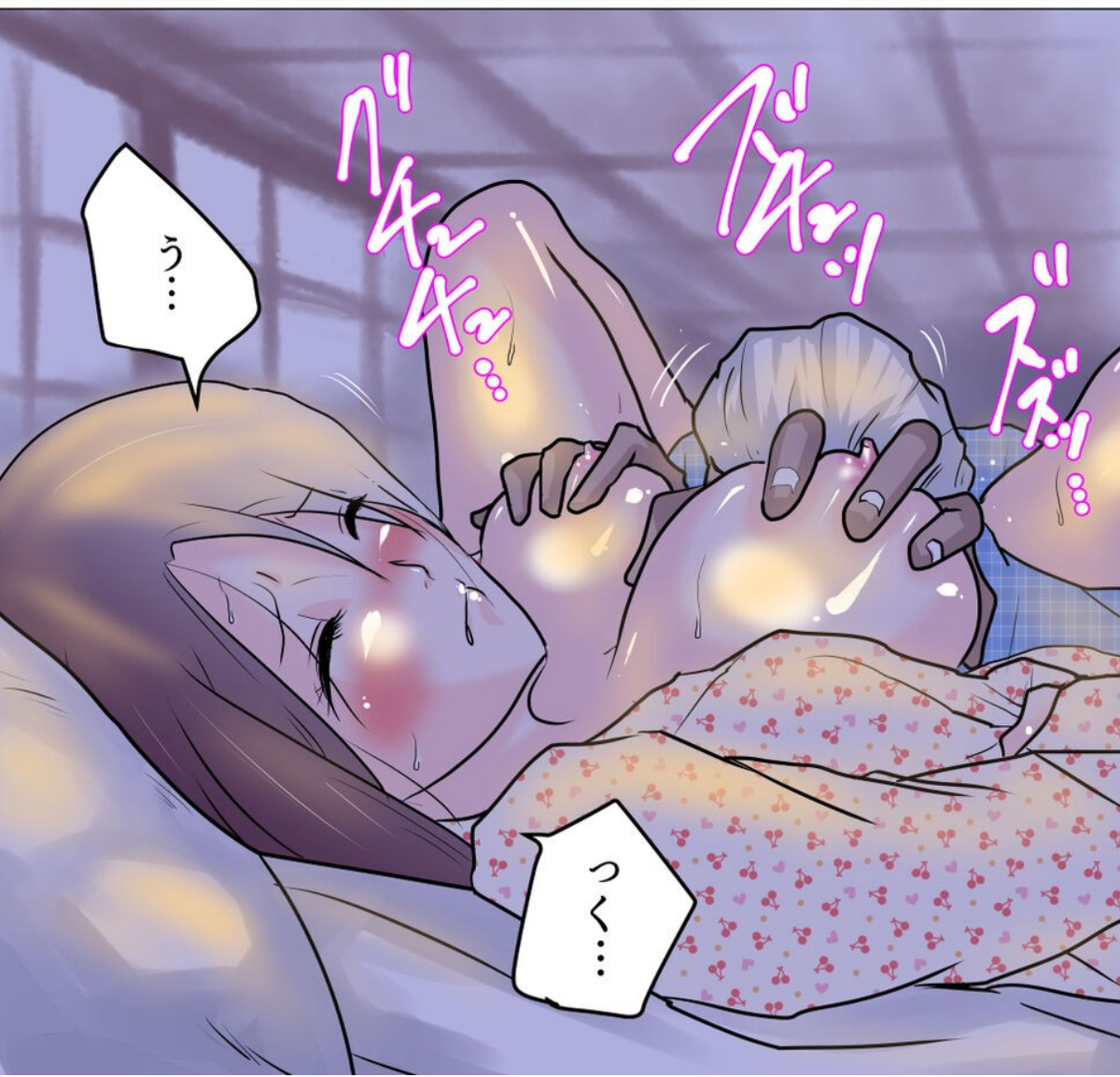


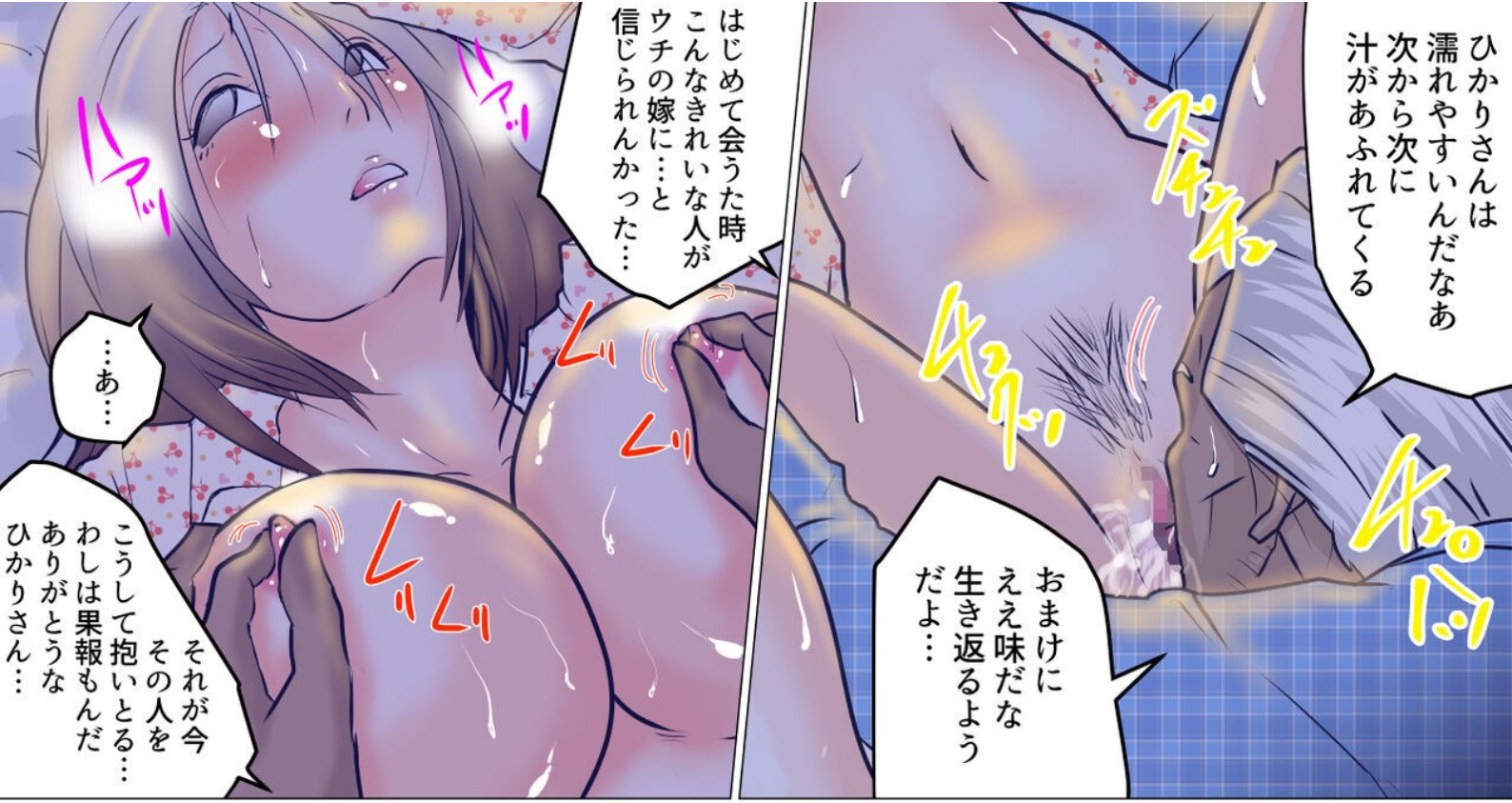
ヒロトさん  
ごめんなさい  
私は悪い妻です

ユウト  
ごめんね  
悪いママで

お義母さん  
申し訳ありません  
悪い嫁ですよね

私は





ひかりさんは濡れやすいんだなあ次から次に汁があふれてくる

はじめて会った時こんなきれいな人がウチの嫁に...と信じられなかった...

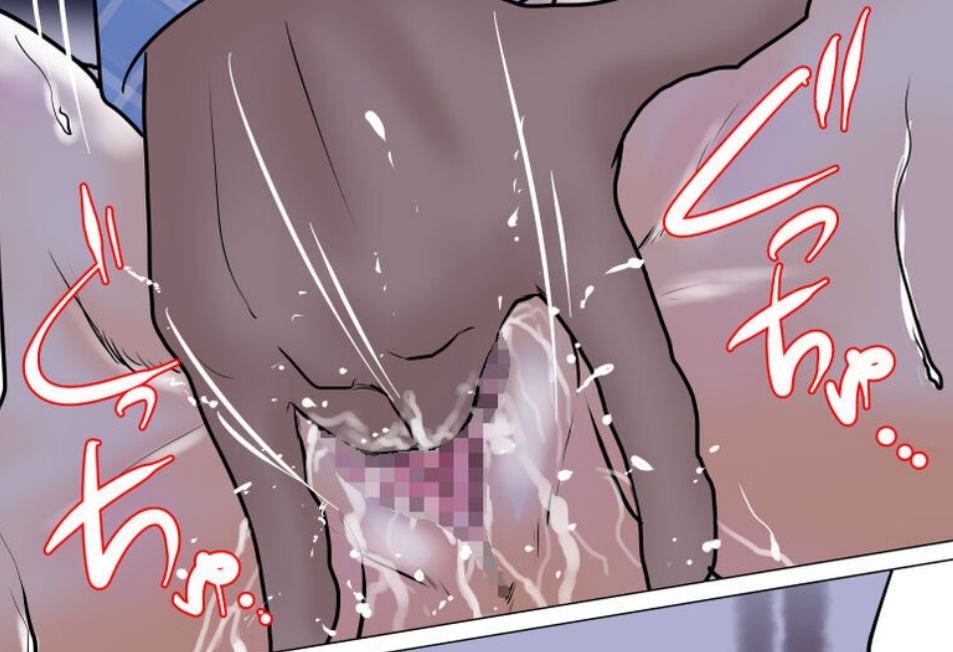
あ...

それが今その人をこうして抱いとる... わしは果報もんだ ひかりさん...

おまけに ええ味だな 生き返るようだよ...

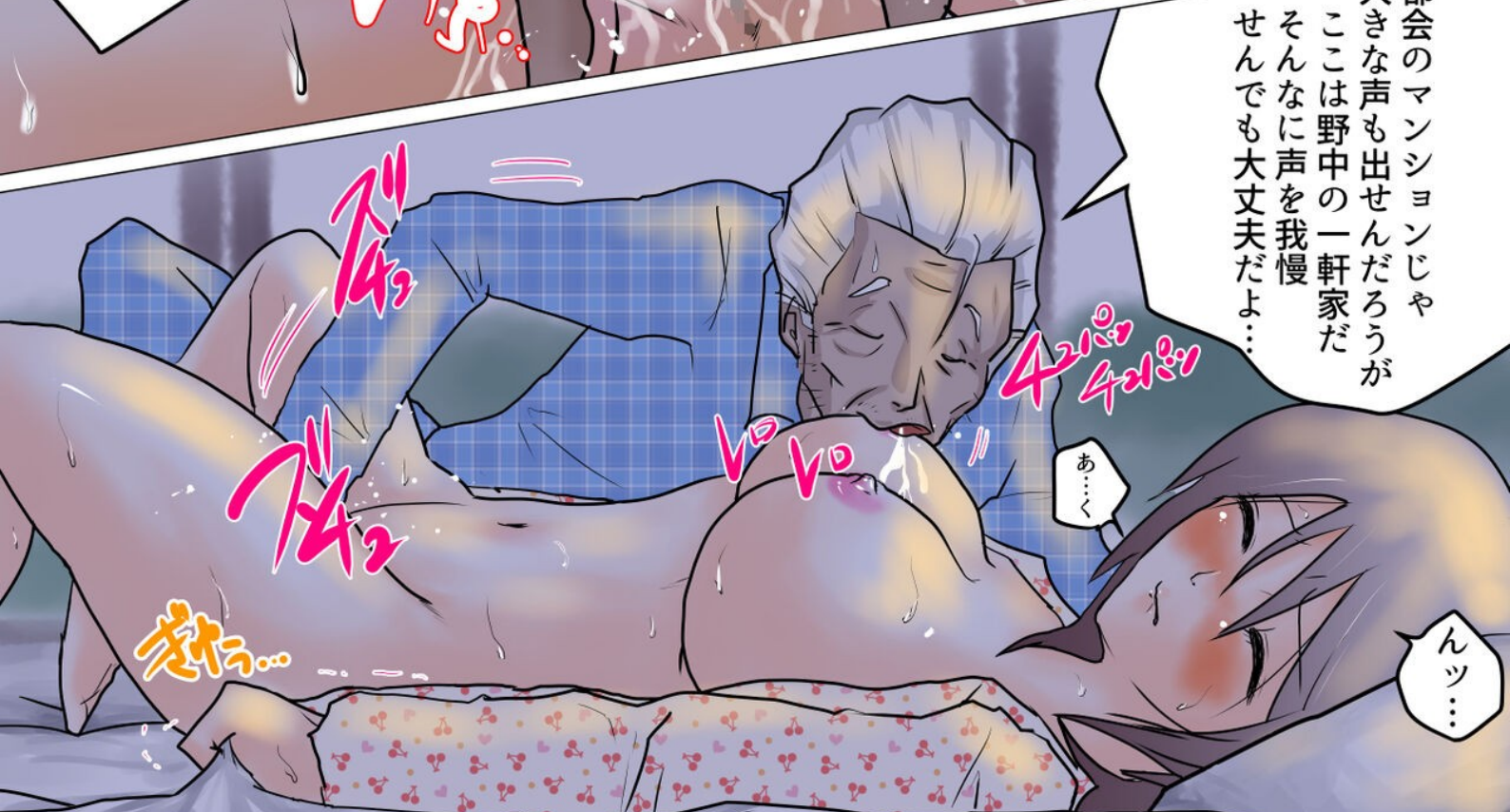


おお...これが  
ひかりさんの中か...  
温うて柔らかい肉が指に  
絡みついてきよる...!!



...んっ  
んんッ  
...!

都会のマンションじゃ  
大きな声も出せんだろうが  
ここは野中の一軒家だ  
そんなに声を我慢  
せんでも大丈夫だよ...



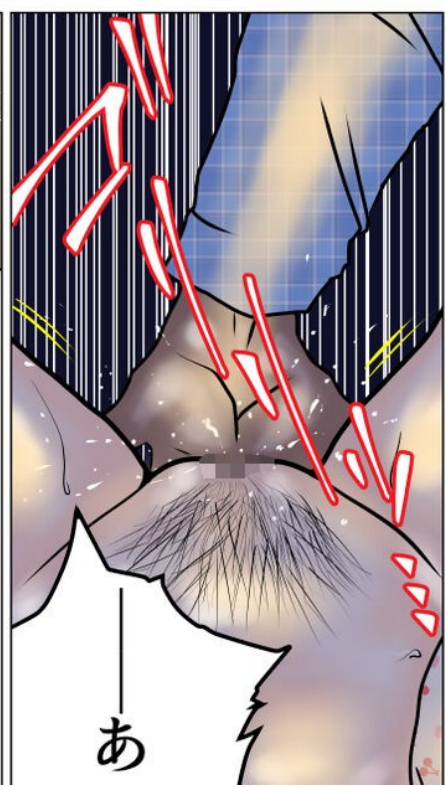
あ...く

んッ...



ここだね  
ひかりさん

待っ...  
あ あ



あ



ああっ





イカされた直後の  
頭の中で崩れたのが  
わかりました

それでも必死で  
抑えていた私の何が



さっきまで  
泣いてた人の  
が

こんなに  
なってる…



おお…

はあ  
すごい大きい…



うおッ



んっ

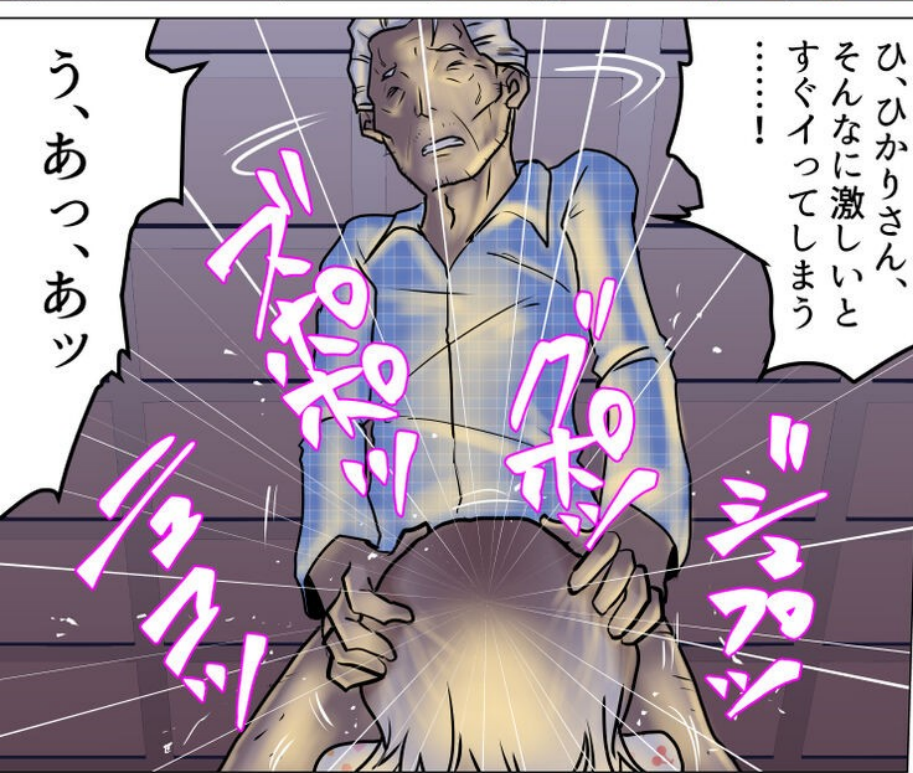
あっ...あっ...い

アッポポッ

アッポッ

アッポッ

んっ



ひ、ひかりさん、  
そんなに激しいと  
すぐイってしまう  
.....!

う、あっ、あっ

アッポッ  
アッポッ  
んっ



んっ

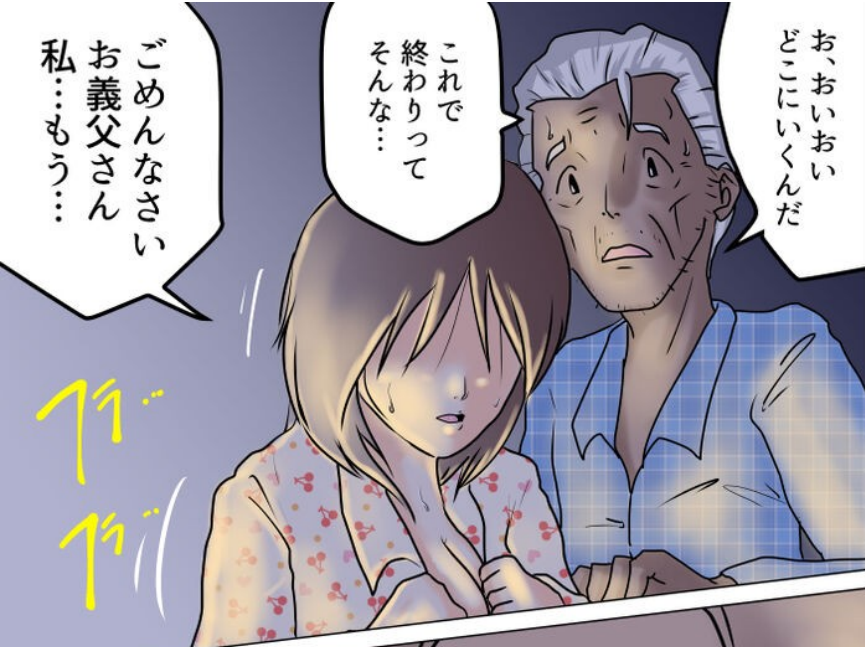
くっくっ

Vooッ  
ビュッ



あんなに激しく  
欲情を覚えたのも  
生まれて初めてなら

んっ



ごめんなさい  
お義父さん  
私...もう...

これで  
終わって  
そんな...

お、おいおい  
どこにいくんだ



え...な...なんで  
止めるんだ...?  
ひかりさん...?

はっ  
はっ



がまん...

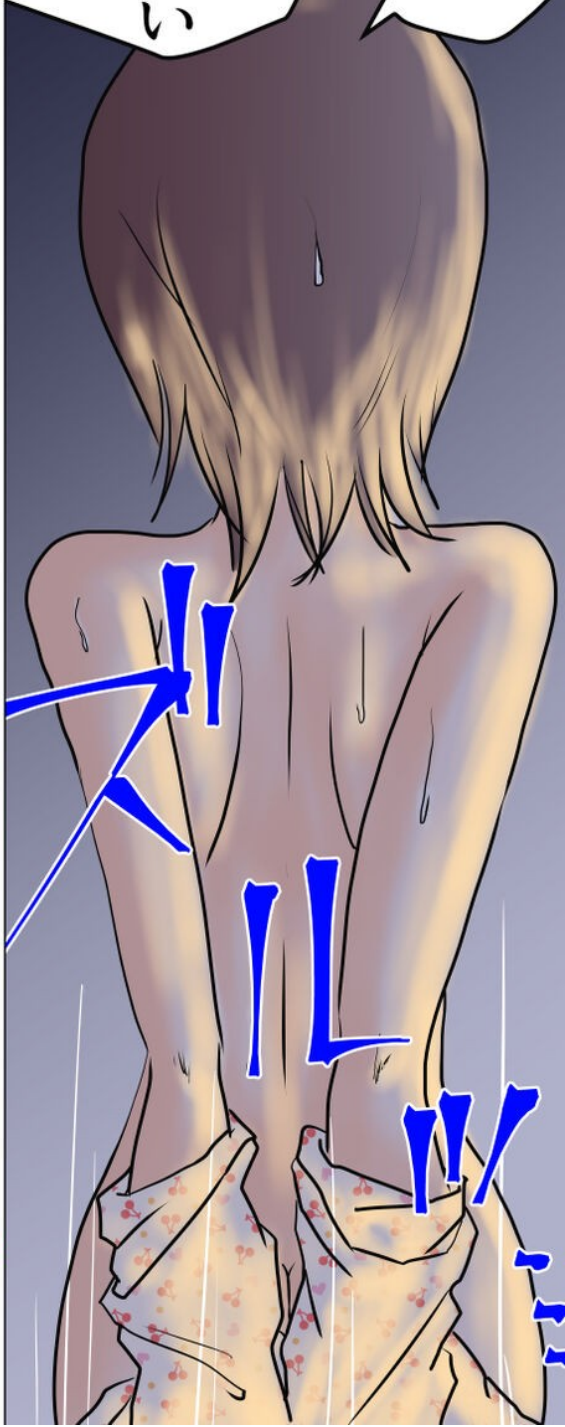
できなく  
なっちゃい  
ました...



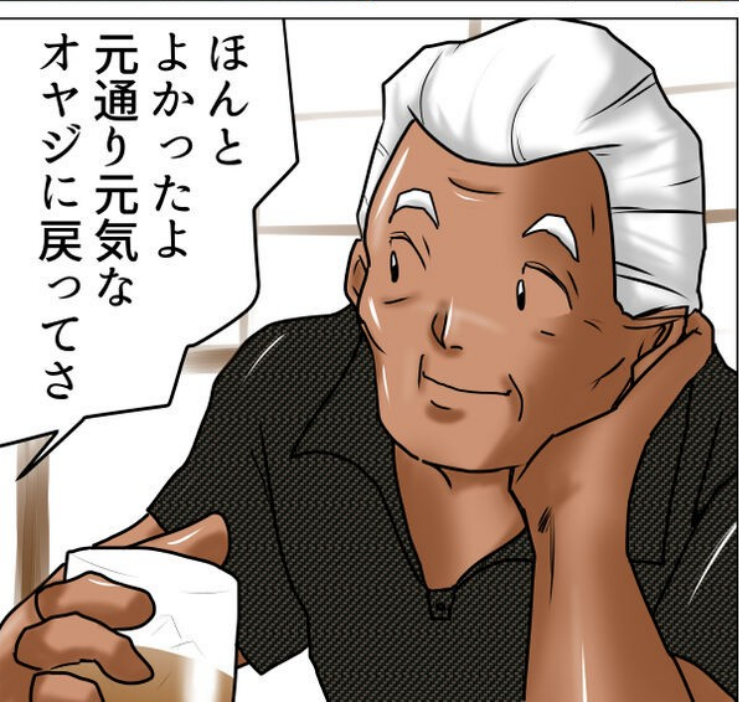
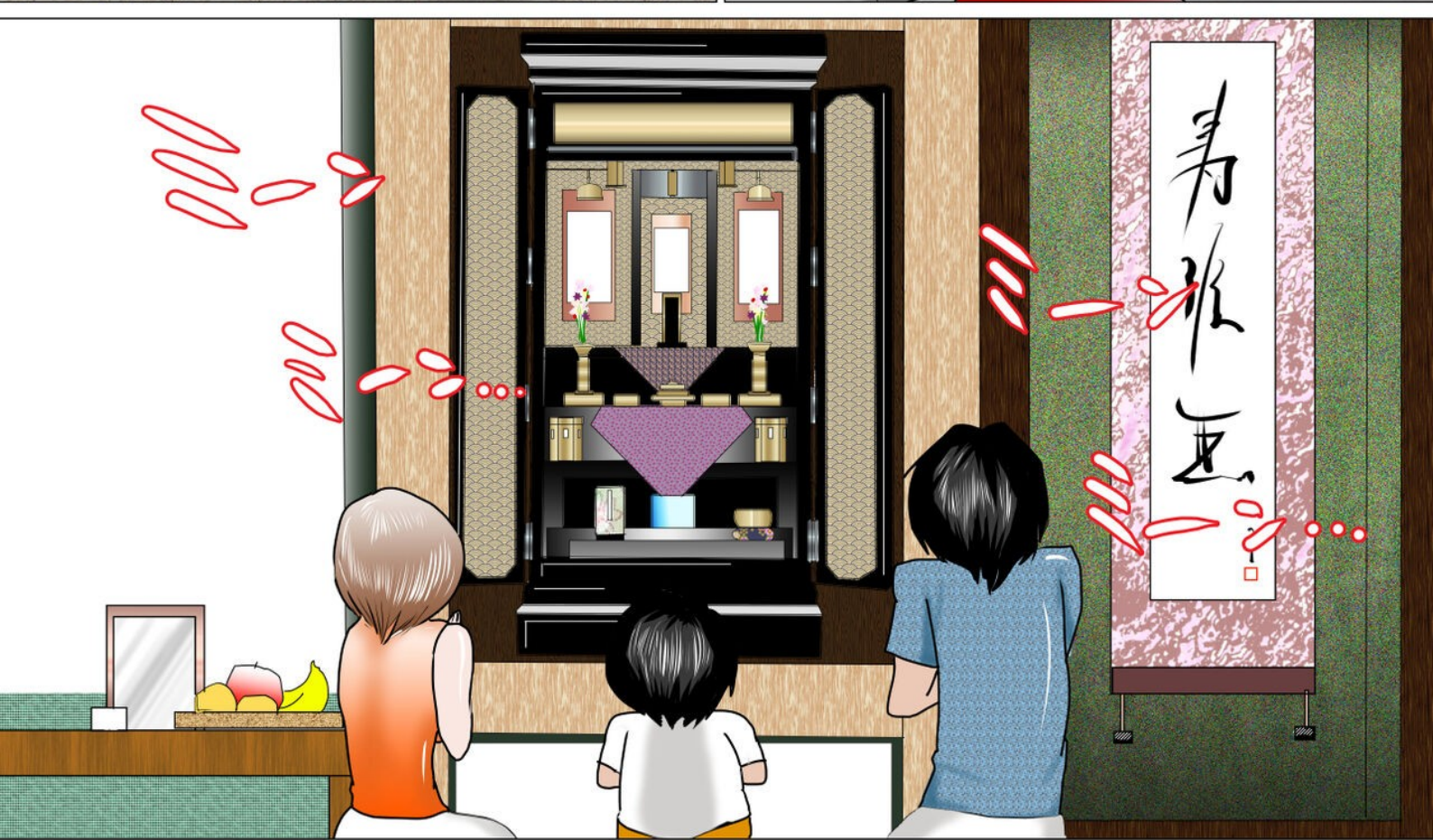
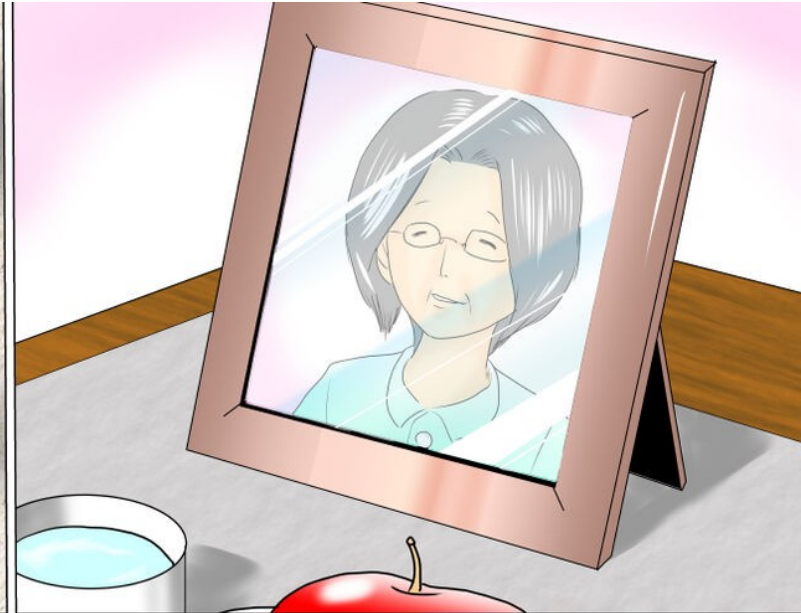
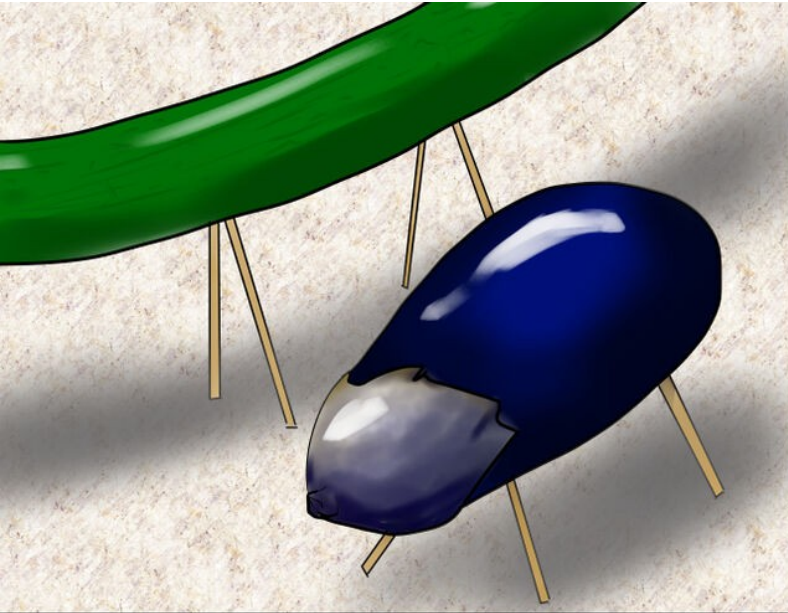
お:  
お義父さんの  
おつきくくなった  
おチンポ:  
私の  
オマンコに  
ください...

はっ  
はっ

あんなに下品で  
恥ずかしい  
言葉とポーズ:  
そして自分から  
誘ったことも  
初めてでした



ズッ  
ズッ  
ズッ

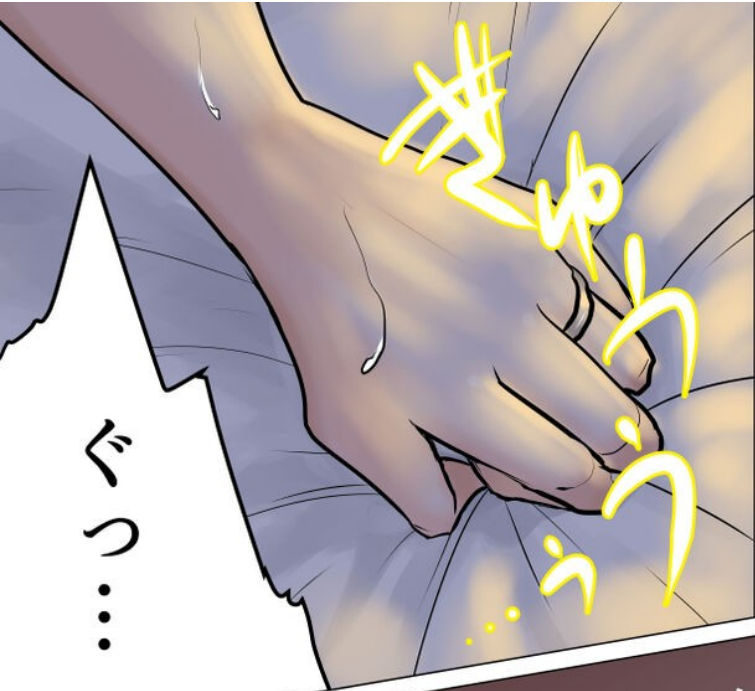


ほんと  
よかったよ  
元通り元気な  
オヤジに戻ってさ



一時は後を追うん  
じゃないかってほど  
落ち込んでたけど…

おふくろが亡くなって  
もう一年か…



ぐっ…



あっ

あっ



なんちゆう  
ヤらしいマンコ…  
吸いちぎられそう  
だ…!!

やんっ



ああっ

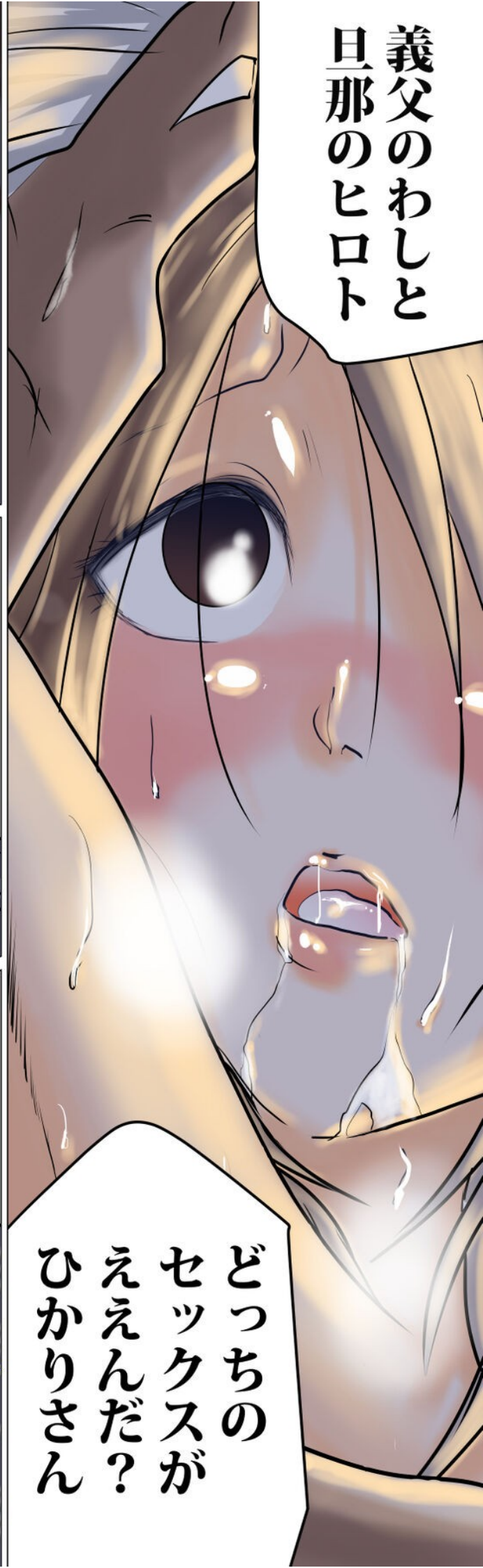
あんっ

ふんっ

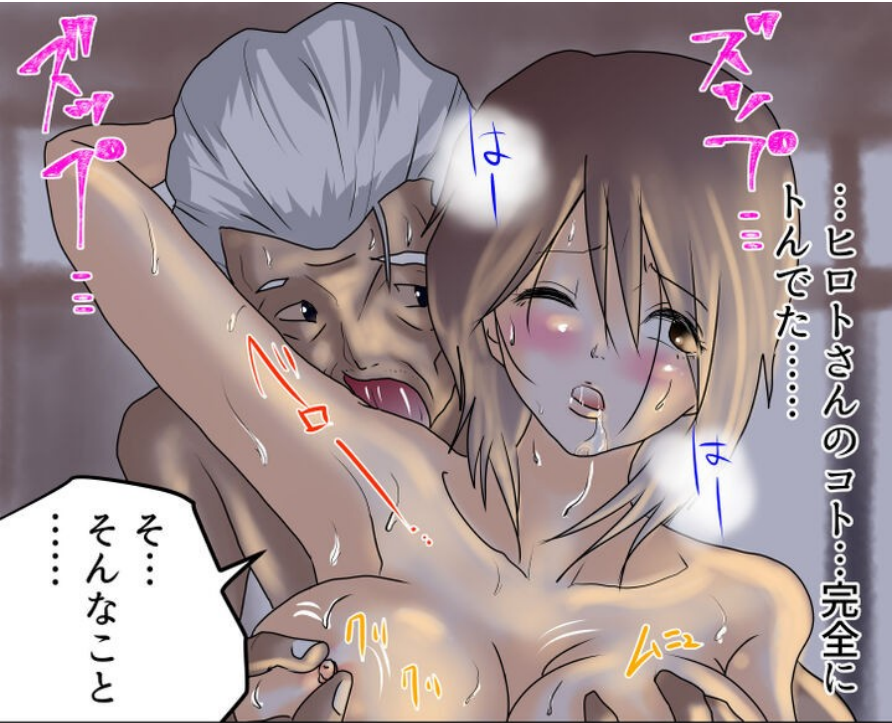
んんん



義父のわしと  
旦那のヒロト

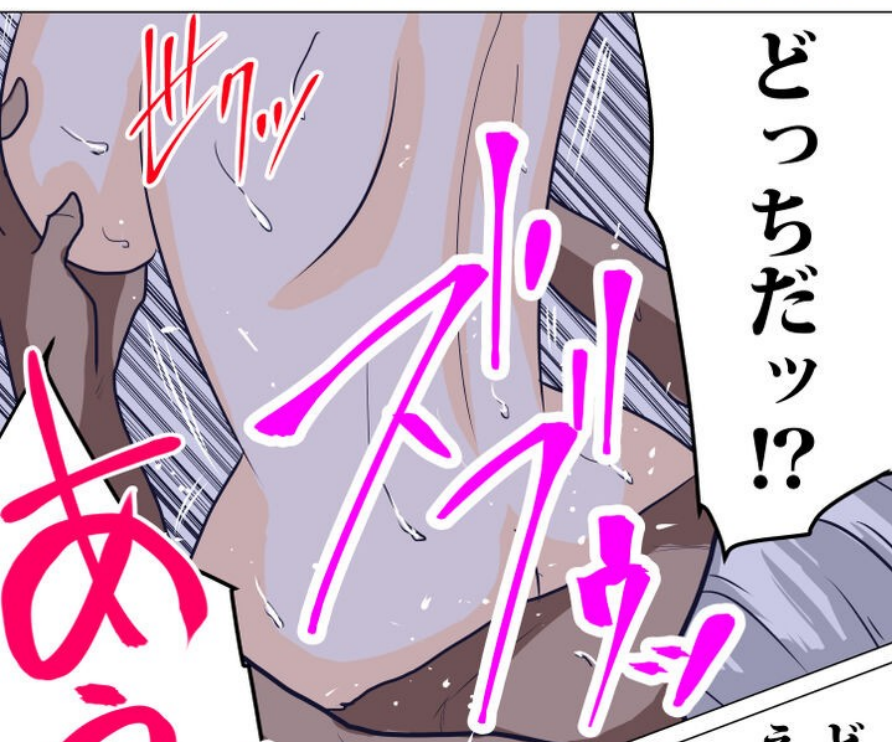


どつちの  
セックスが  
ええんだ？  
ひかりさん



…ヒロトさんのコト…完全に  
トんでた…

そ…  
そんなこと  
…



どつちだツ!?

あー  
あー



どつちが  
ええんだツ!?

あッ

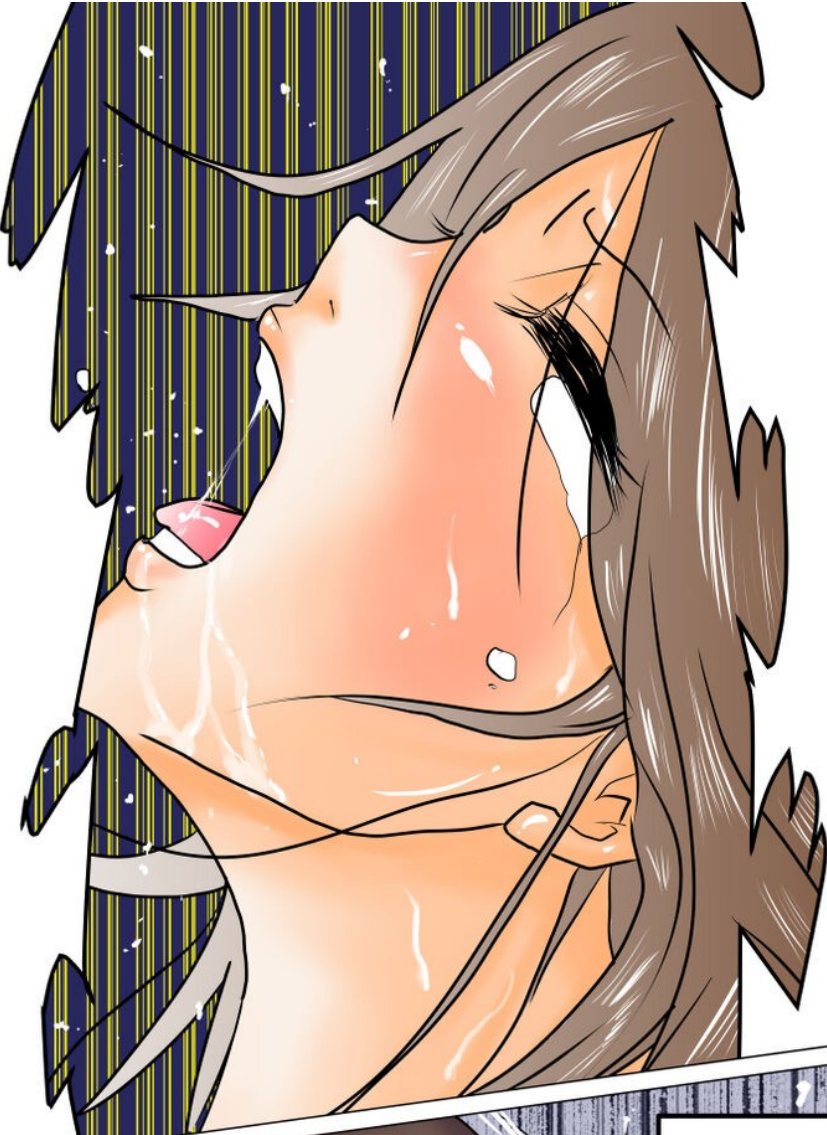
あんツ

どつちの  
チンポが  
ええんだツ!?

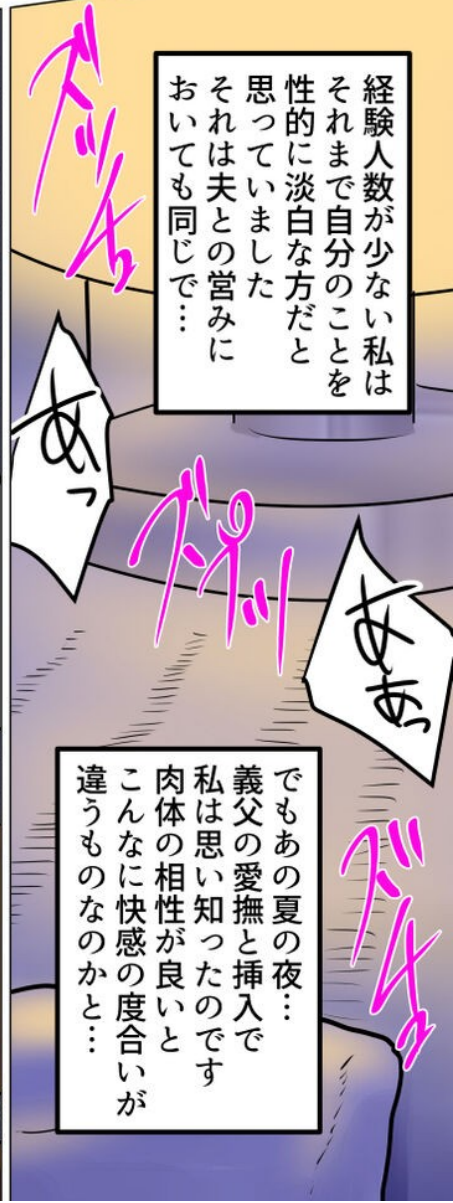


…お

お義父さんがいいっ!!



お義父さんのおチンポで私をイかせてくださいさいっ!!



経験人数が少ない私はそれまで自分のことを性的に淡泊な方だと思っていましたそれは夫との営みにおいてと同じで…

でもあの夏の夜…義父の愛撫と挿入で私は思い知ったのです肉体の相性が良いとこんなに快感の度合いが違うものなのかと…

あの日の私はもう

いいっ  
いいっ



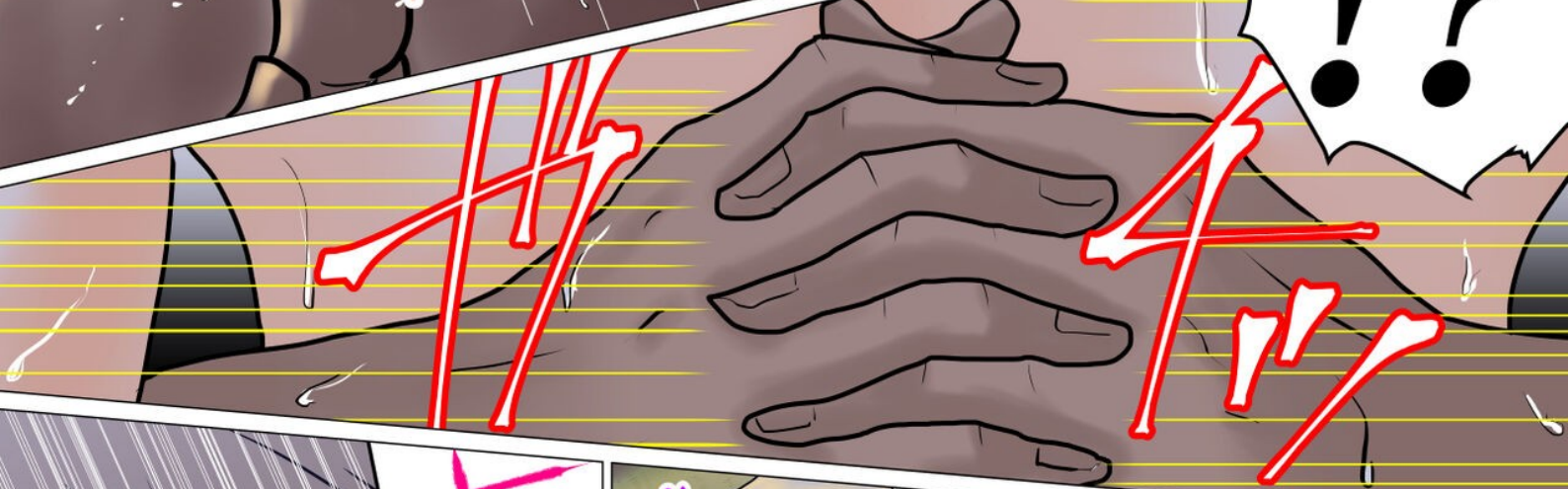
お義父さんおチンポもつと突き上げてえ

ただの一匹のメスでした



ひっ、  
ひかりさん  
わ、わしはもう  
イキそうだ…!!

私もっ!!  
私も一緒に…



!?



ひかりさんッ  
一緒にイクんじやる!!  
ああ、締まる締まるッ  
おおおおおおおおッ

あッ! ああッ!  
ダメッ! いやッ…  
あああッ!!



え…ちよっ…  
お義父さんッ  
中はダメッ!  
中はっ…



イツ...く!!

セッ

セッ

セッ

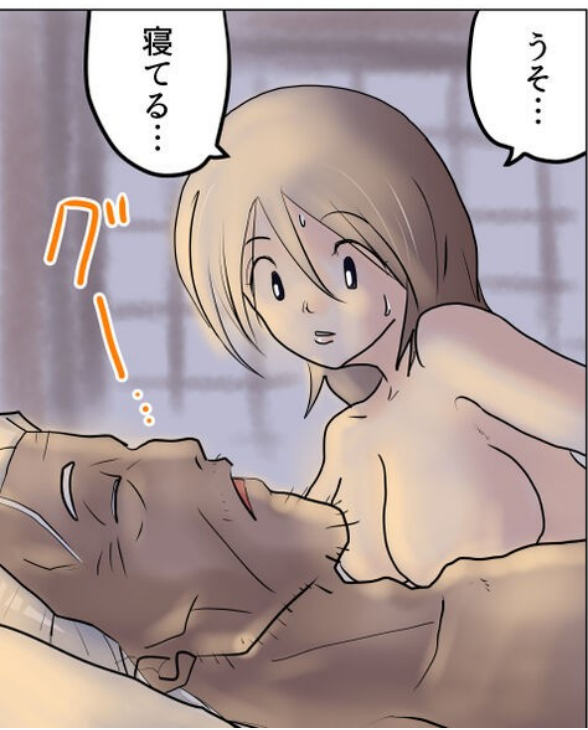
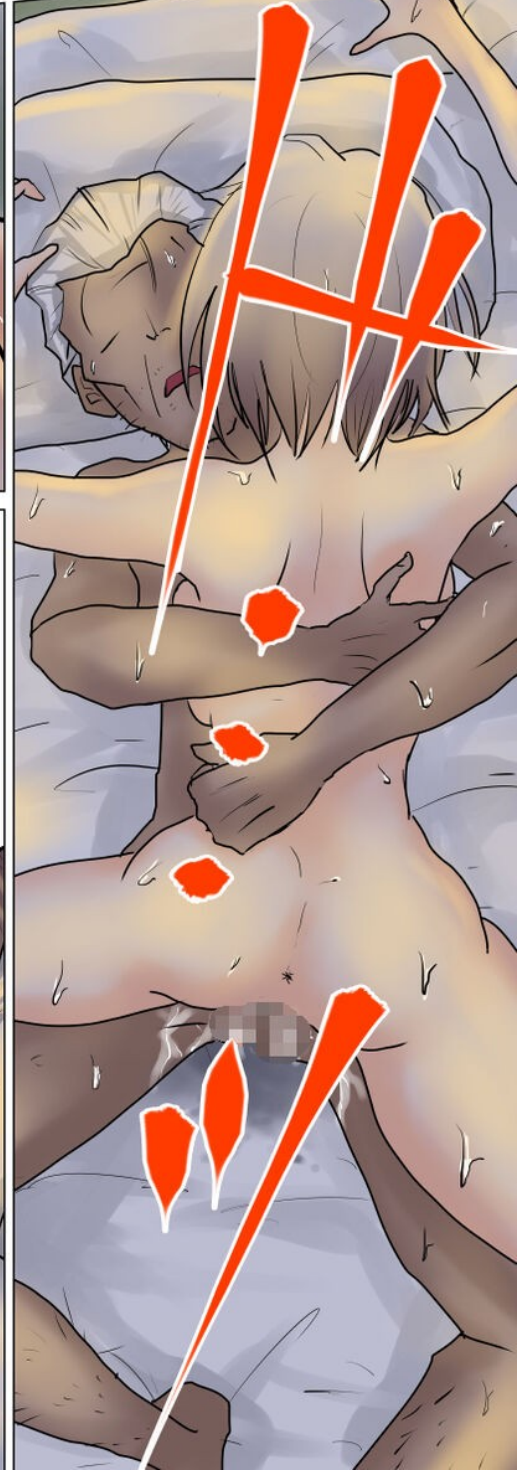
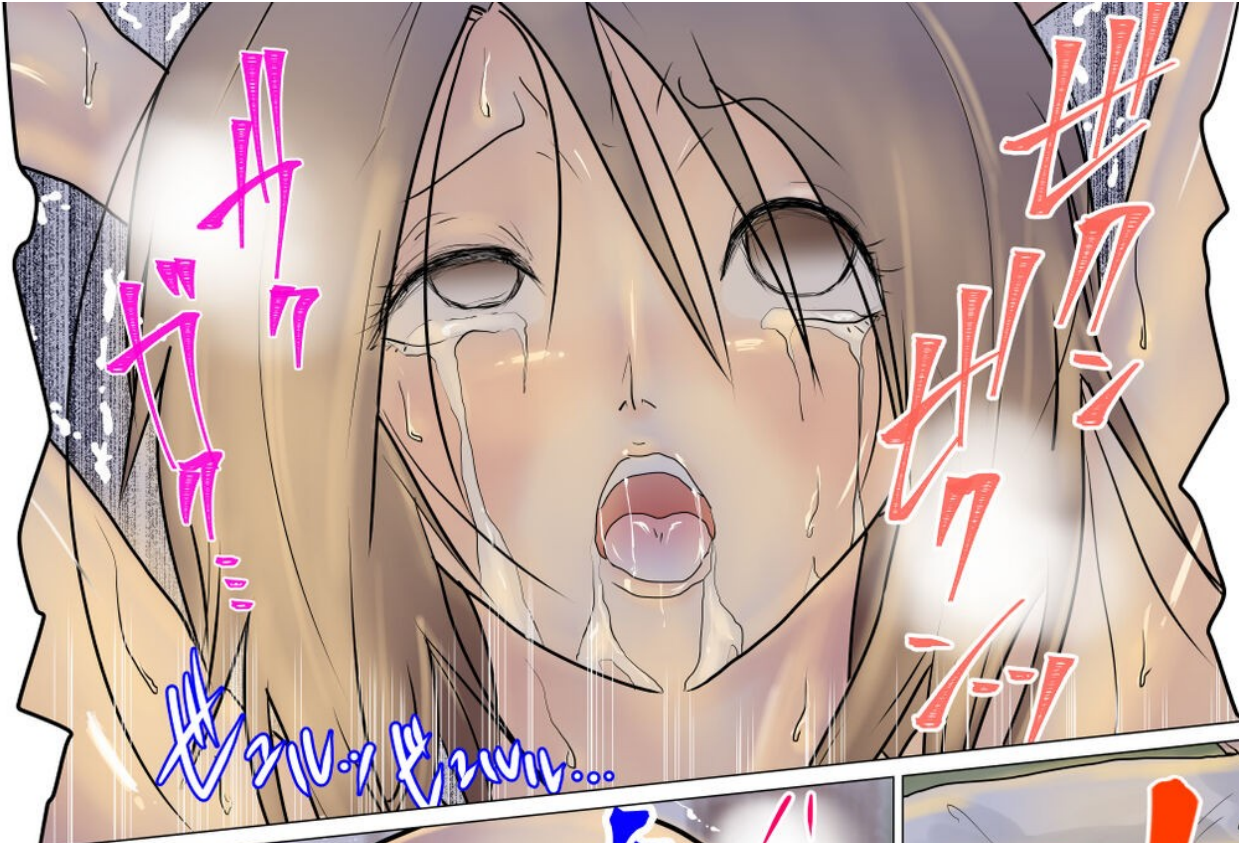
セッ

セッ

わんわんわんわん

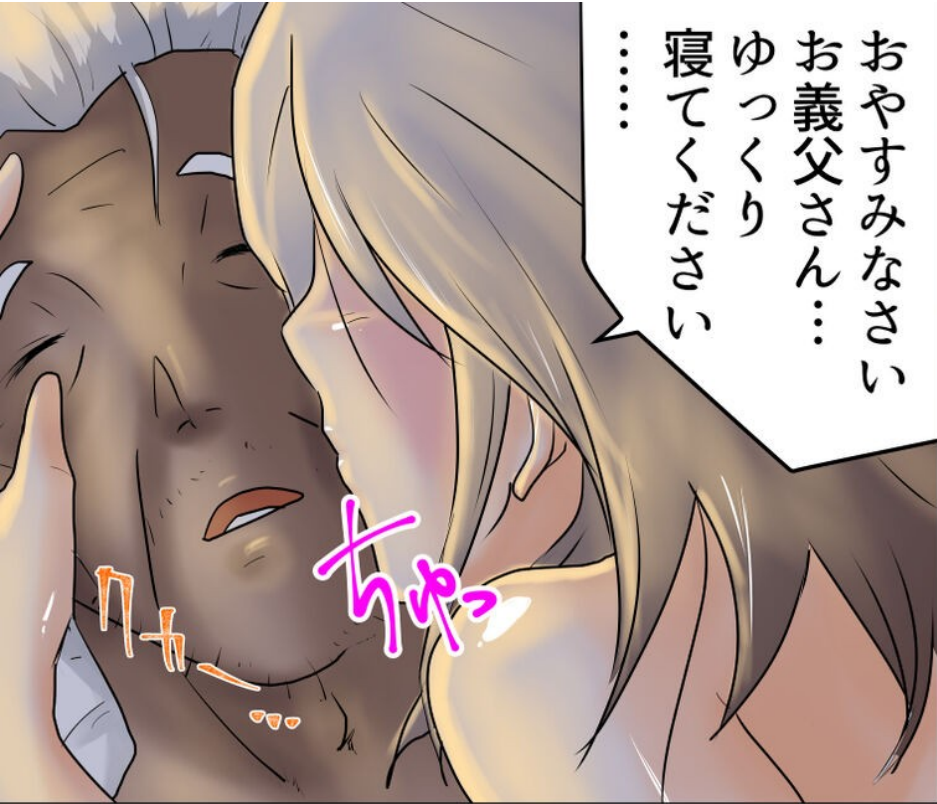
だ…メなのに…中…

イっててるッ…

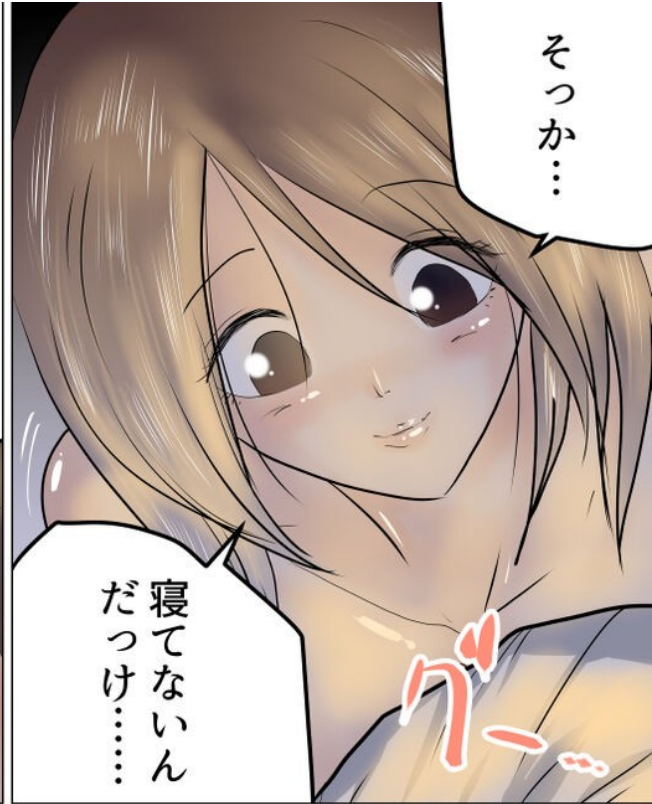


……ダメって…  
言ったのに……

……  
どうするんですか  
赤ちゃんできたら  
……

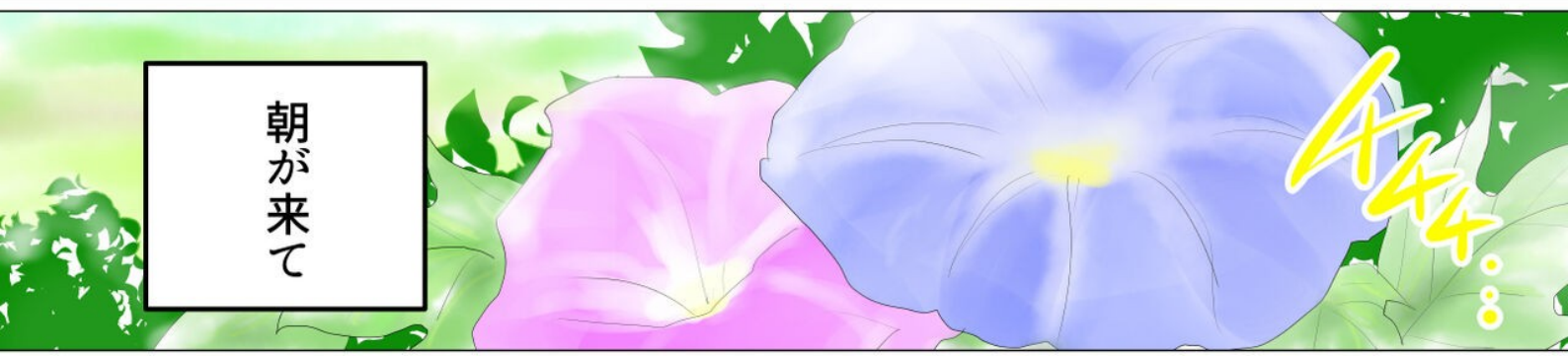


おやすみなさい  
お義父さん…  
ゆっくり  
寝てください  
……

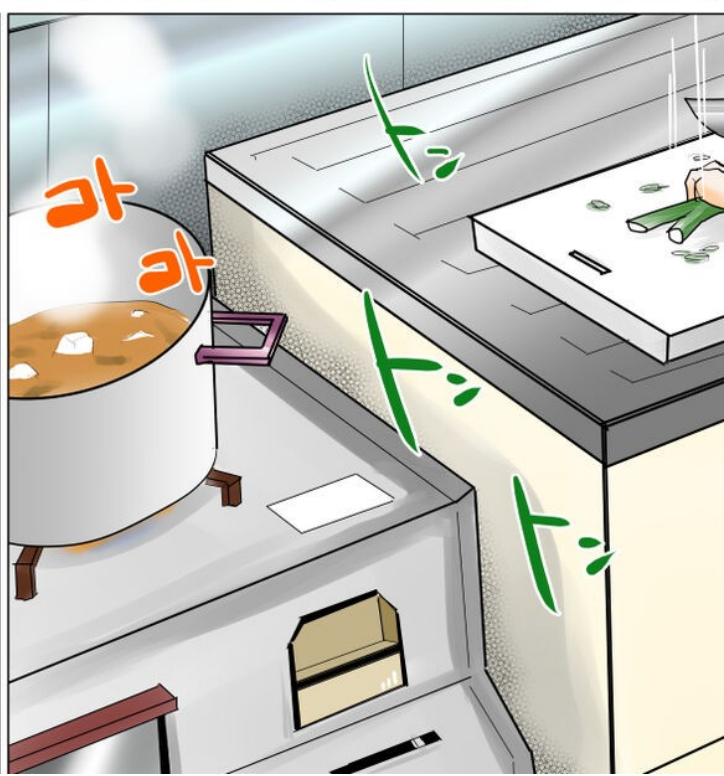
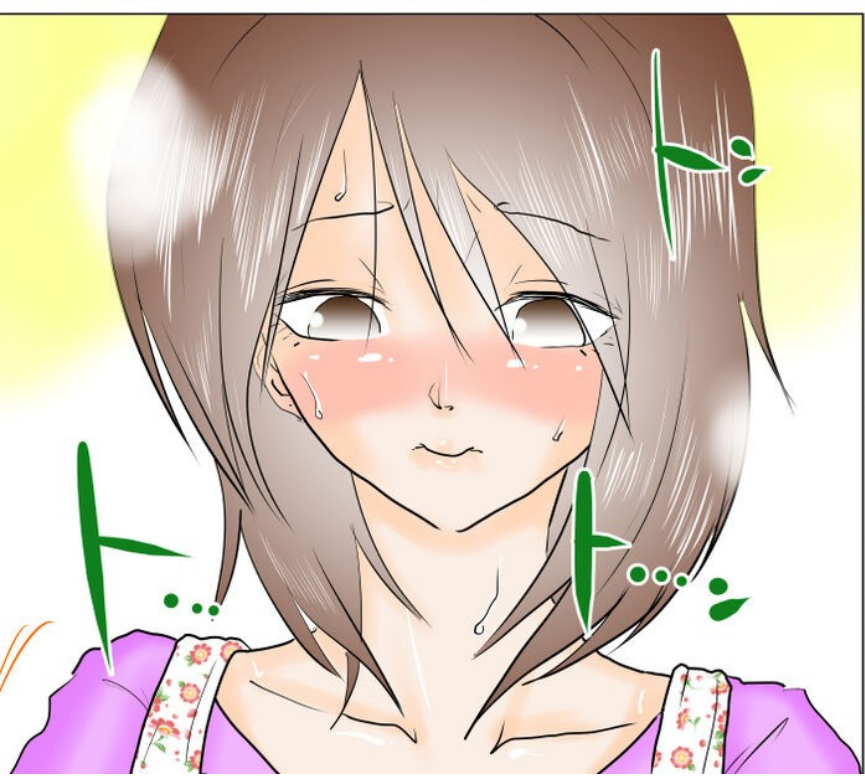


そっか…

寝てないん  
だっけ……



朝が来て





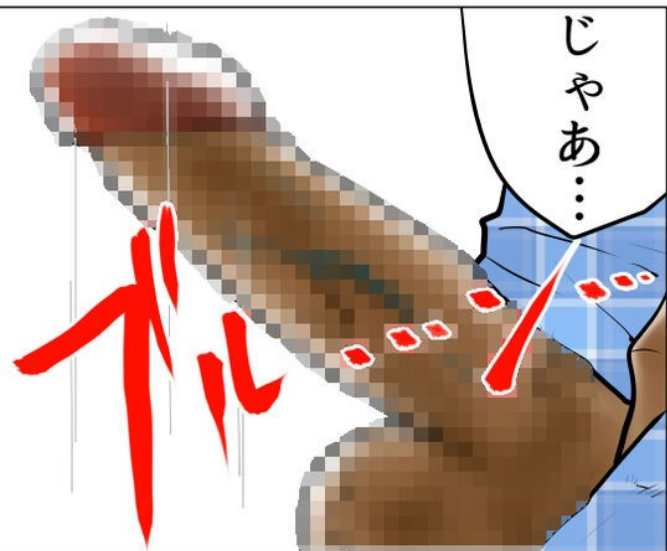


お、お義父さん  
わ、私もう...

んんっツ

ああっ

やつ



じゃあ...

ブル



尻の穴を舐められて  
我慢できなく  
なるなんて...  
いやらしいんだな  
ひかりさんは...

そんな...  
いじわる...

お待ちかねの大好物だよ

あんっ



あ...っ

ザッ  
ザッ  
ザッ

それもこれも  
みーんな  
おまえたちの  
おかげさ…

一人息子のヒロト  
かわいいかわいい  
初孫のユウト…  
それになんといつても

ひかりさんの  
存在だ

あれ  
ヨメ持ち上げ  
ちやつてー

ユウト  
あれゴマすり  
つてんだぞ！

ゴマスリー！  
ゴマスリー！！

はは…バカ  
事実だからそう  
言ってるだけだ

母さんが逝ってから  
ひと月もの間つきつきり  
身の回りの世話や手料理  
細やかな気づかい…  
本当に有り難かった

と…とんでも  
ありません

あれがなかったら  
わしは今ここには  
おらんかもしれん  
なあ、ひかりさん…

嫁として  
できることを  
しただけ  
ですから…

あああ

あッ



んうッ

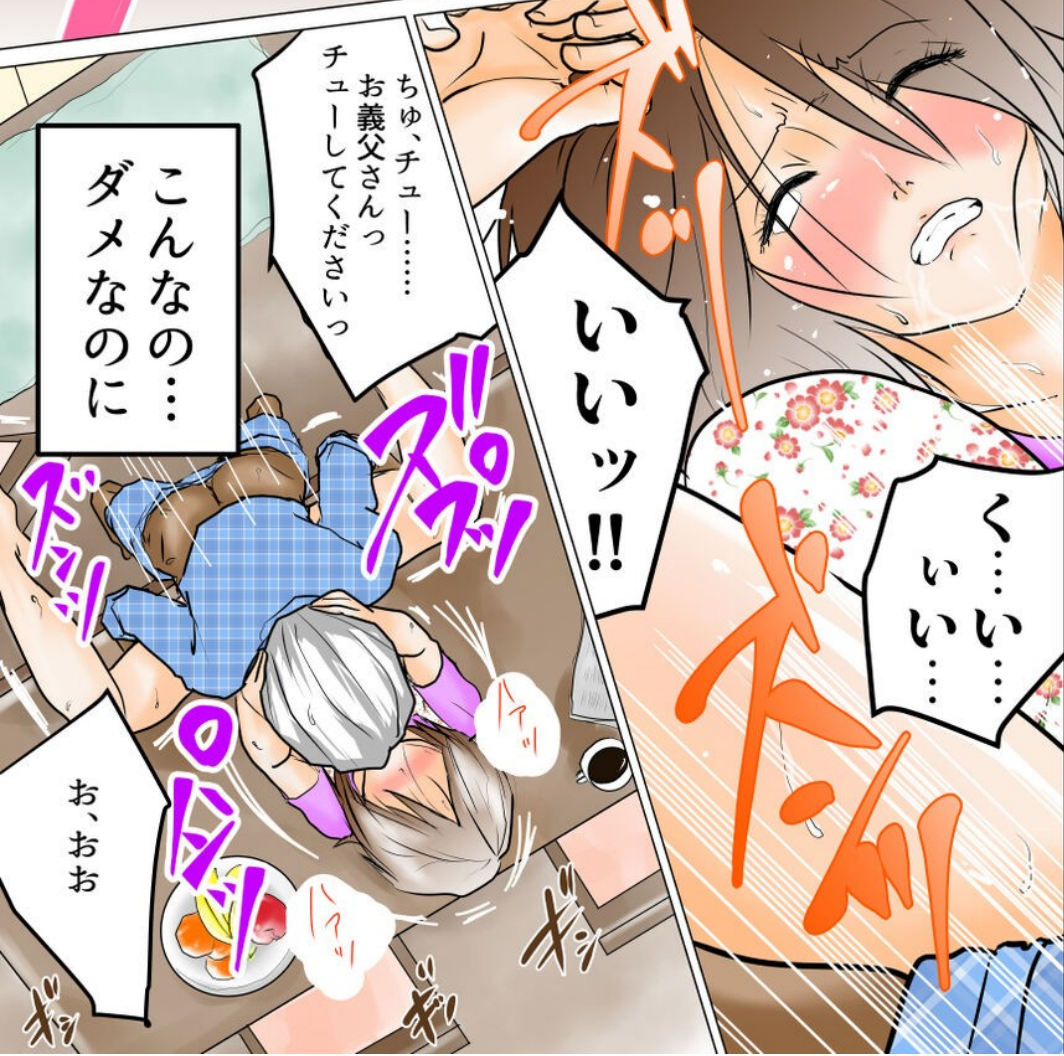


ちゅ、ちゅー……  
お義父さんっ  
チューしてくださいっ

こんなの……  
ダメなのに

いいッ!!

やんッ



お、おお





あんあ  
ああ

タガはどんどん  
外れていって

お義父さんっ

お…

あんッ

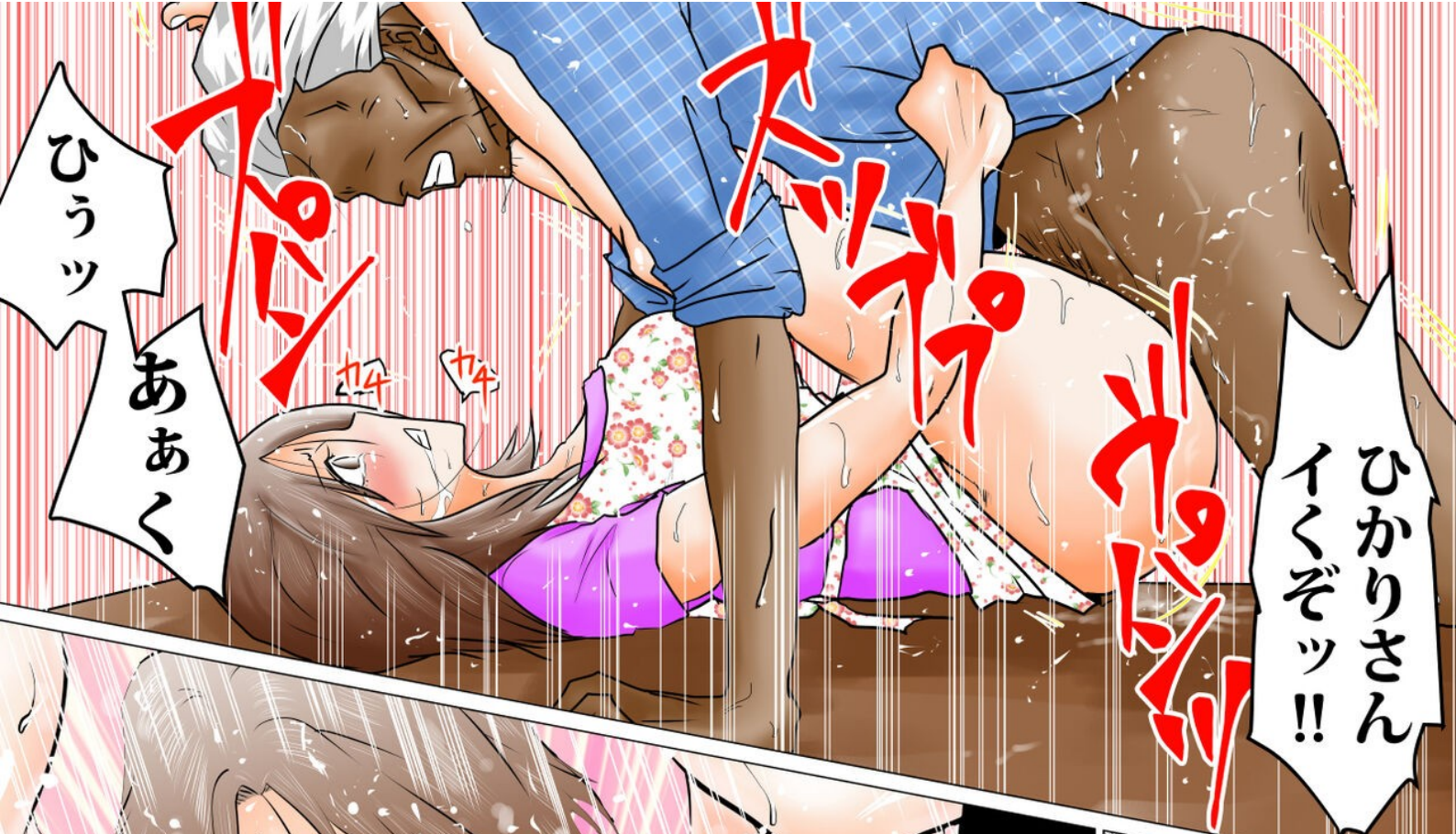


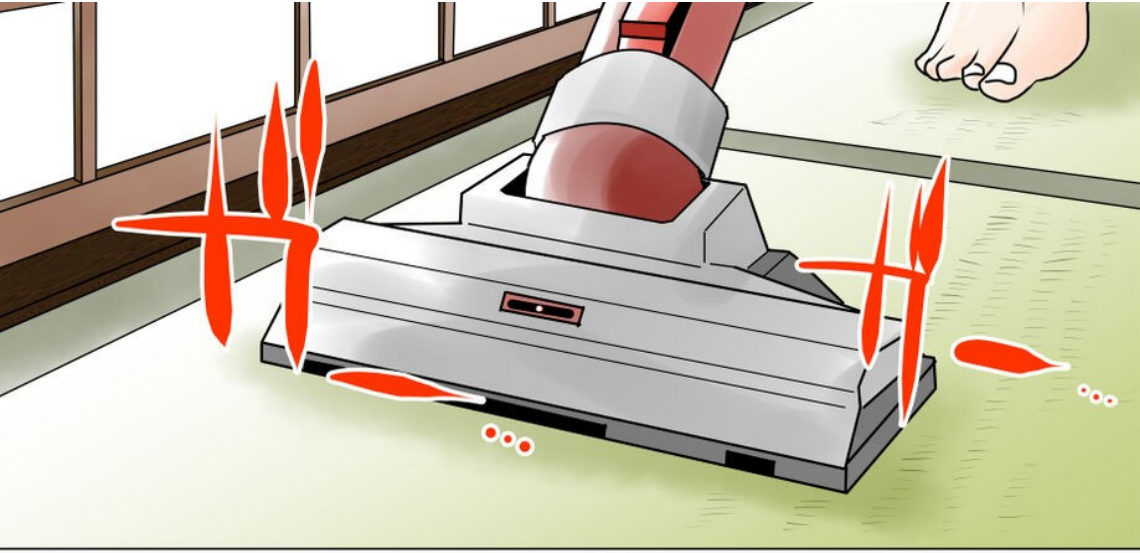
とろけるくらい  
気持ちいい



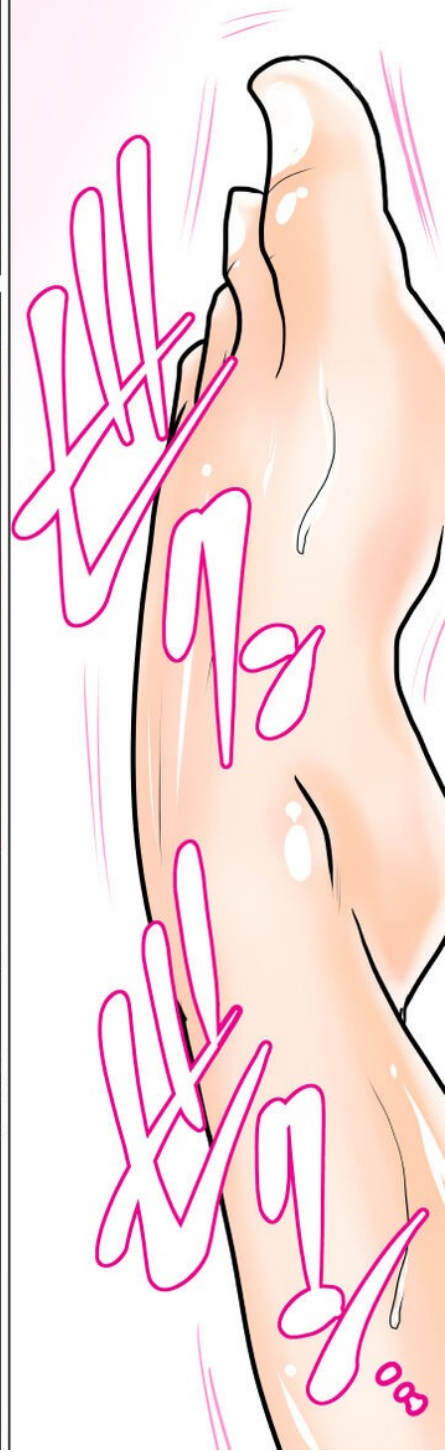
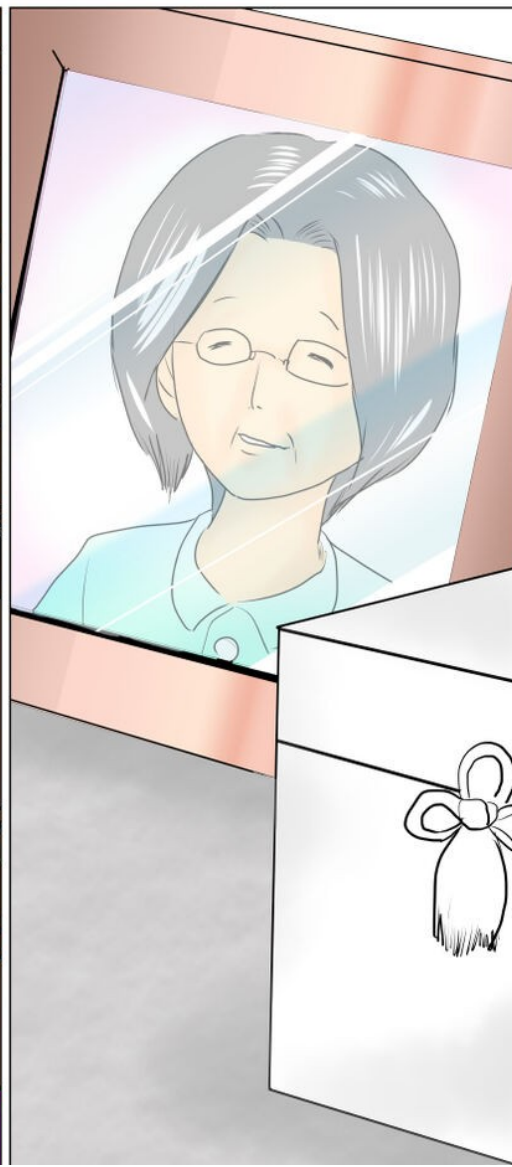
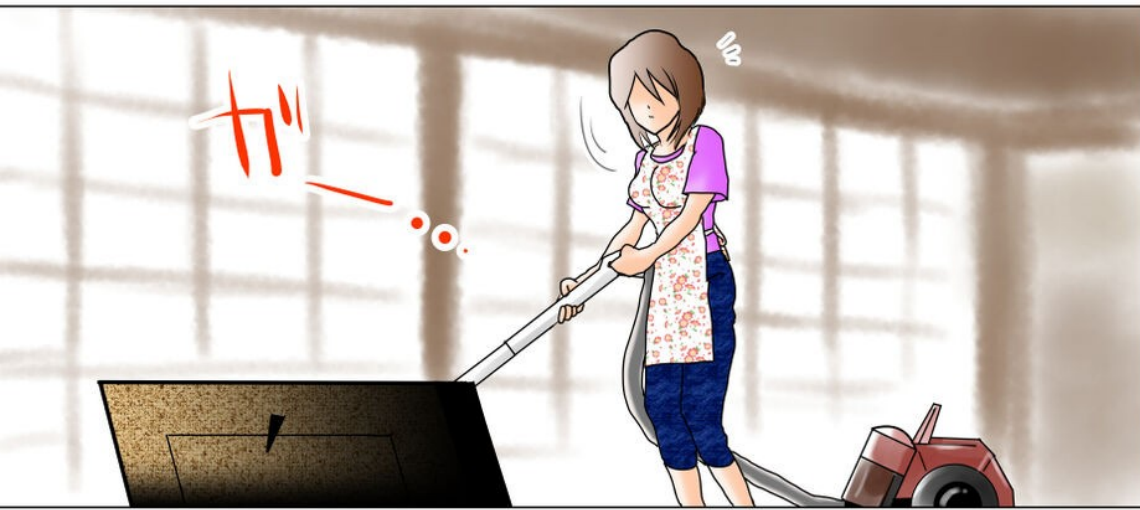
ああッ

止めなきゃ  
…でも…





ごめん…なさい



義父は日に日に  
心身の健康を  
取り戻していき  
迷いながらも私は  
それに喜びを  
感じていました

そして強い背徳感  
強い快感とぴったり  
背中合わせで—  
私たちの行為は  
場所も時間も選ばず  
日ごとエスカレート  
していきました…

せめてあと  
一週間…

ユウトの新学期が  
始まるまでは  
傍にいてあげたい  
と思つて…

ううん、全然  
こつちこそゴメンね  
一人で大変でしょ  
ヒロトさん…

まだちょっと心配で…  
だからうん…そうそう

…え？今日の晩御飯？  
えつと…えつとね…  
そ、そうだな…  
ど、どうしよつ…

…あ、ごめんごめん  
何でもないよ—  
今？縁側にいるよ…  
え、縁側で…ん…縁側で…



ひ…  
ひなたぼつ…こ

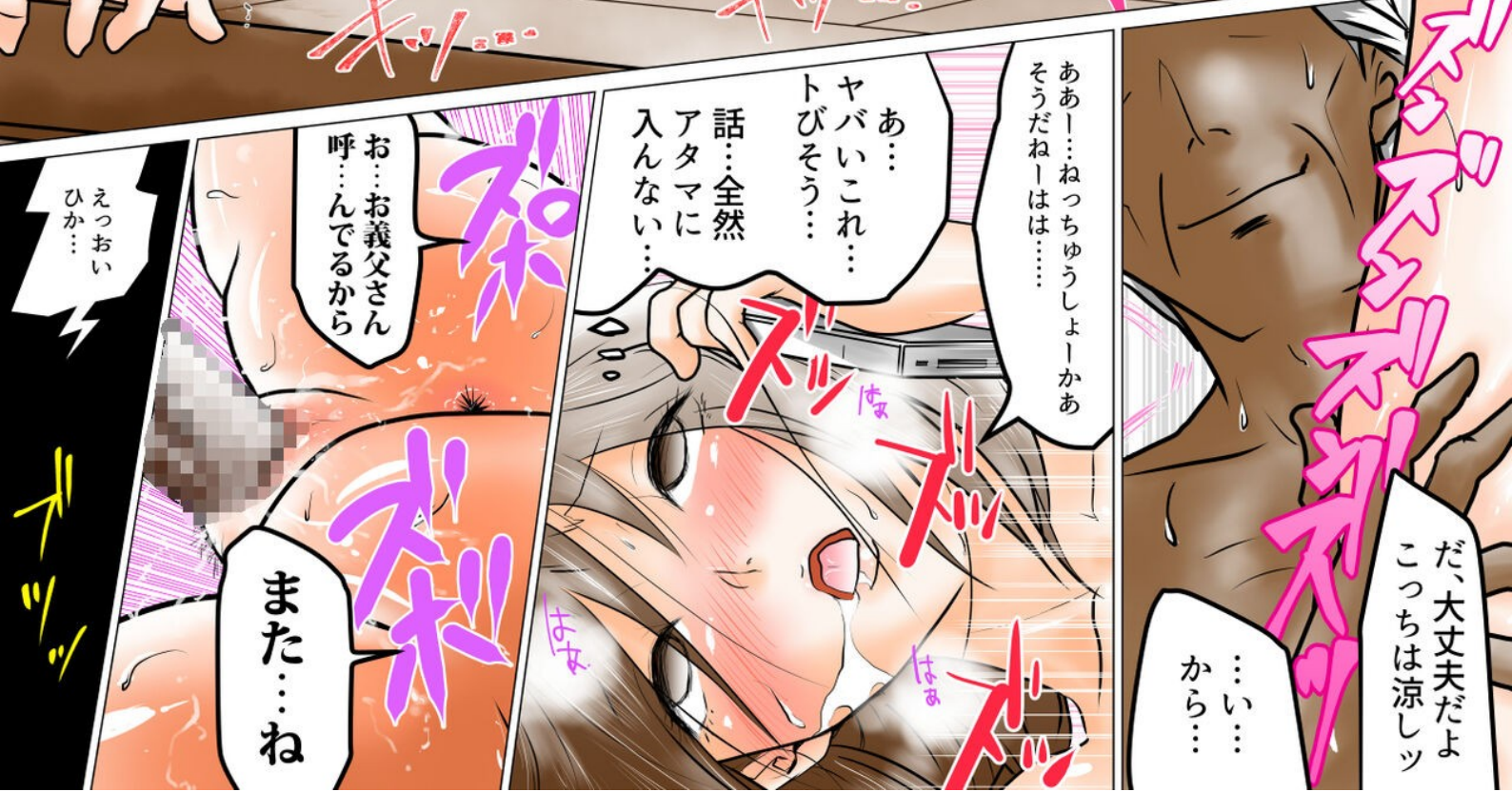
ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



ああ…ねっちゅうしよーかあ  
そうだねーはは…

あ…  
ヤバいこれ…  
トビそう…

話…全然  
アタマに  
入らない…

お…お義父さん  
呼…んでるから

えっおい  
ひか…

また…ね

…い…  
から…

だ、大丈夫だよ  
こっちは涼しッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

お…お義父さんっ  
もつとツッ!

もつと突いて!!

だっってお義父さんが…

ああッ

チンポを  
挿入られながら  
旦那と電話する…  
本当に助平だな  
ひかりさんは!!  
叫んでみなさい  
自分は助平だと  
!!

ほれっ

ほれ!!

んああッ

!!

わっ…  
私は…

助平女  
ですッ!!

ごごめん  
なさい!!

お義父さんの  
おチンポで  
アンアン言っ  
ごめんなさい!!



ムク  
ムクムク  
ムクムク

ムクムク

ムクムク

こんな変態嫁で

ごめんなさいッ!!

ムクムク

ムクムク

それから一週間後  
義父のある程度の  
回復を見届けて  
私は夫の郷里を  
あとにしました

義父は相当に  
名残惜しそうでしたが  
約束通り私の家庭を  
壊すようなことは  
しませんでした  
ただ別れ際の言葉

そして一年が経ち  
再び訪れた  
この家で私は今…  
あの言葉の意味を  
考えています

ア...

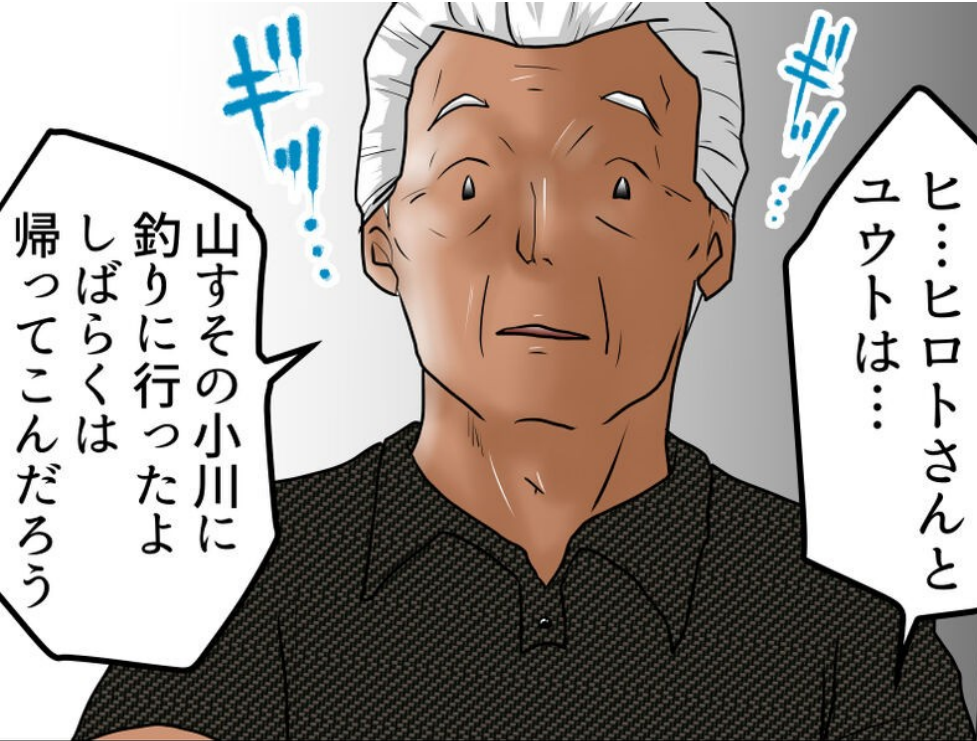
来年の夏も  
楽しみにしとるよ

それを励みに  
この一年何とか  
頑張るつもりだ

ショートヘアもよう似合う…



ア...



山すその小川に釣りに行ったよ  
しばらくは帰ってこんだらう

ヒ…ヒロトさんとユウトは…



お…お義父さん…

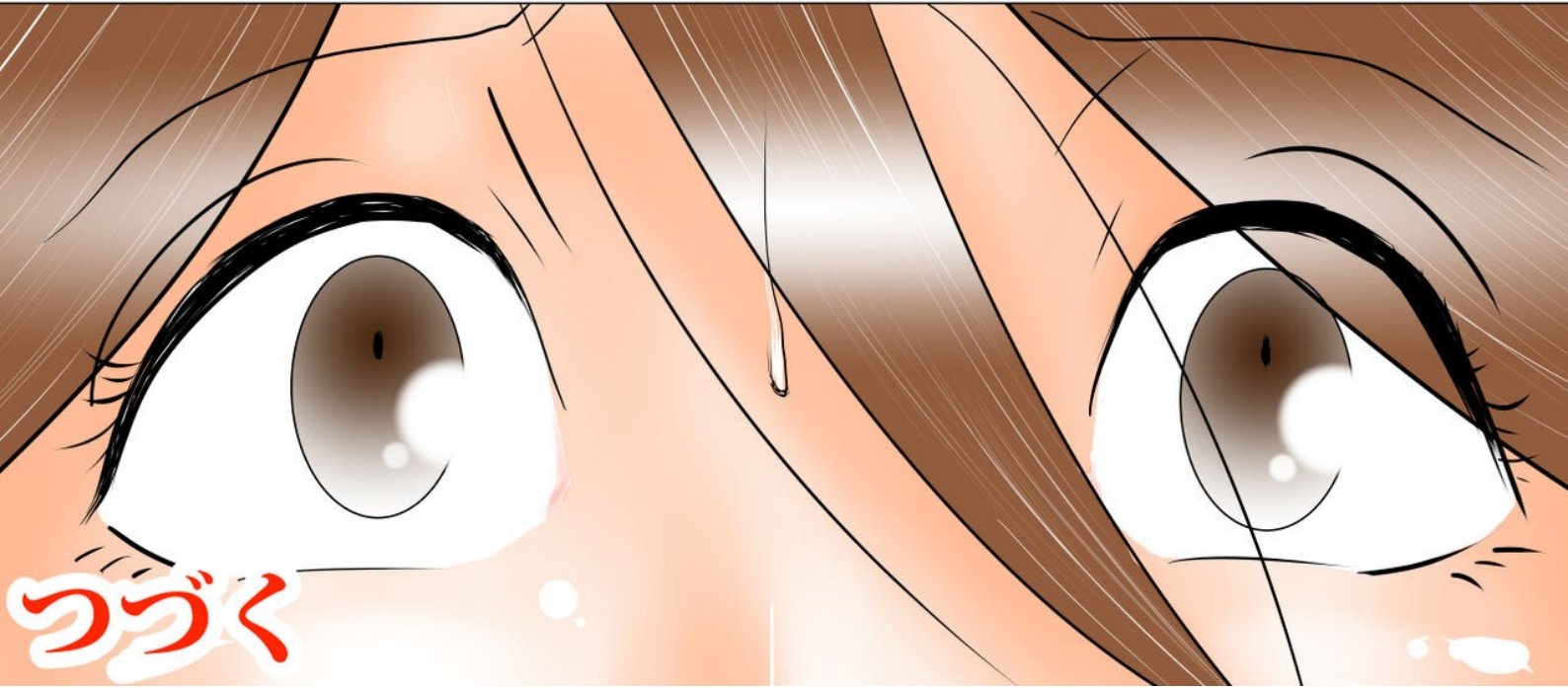


さあ

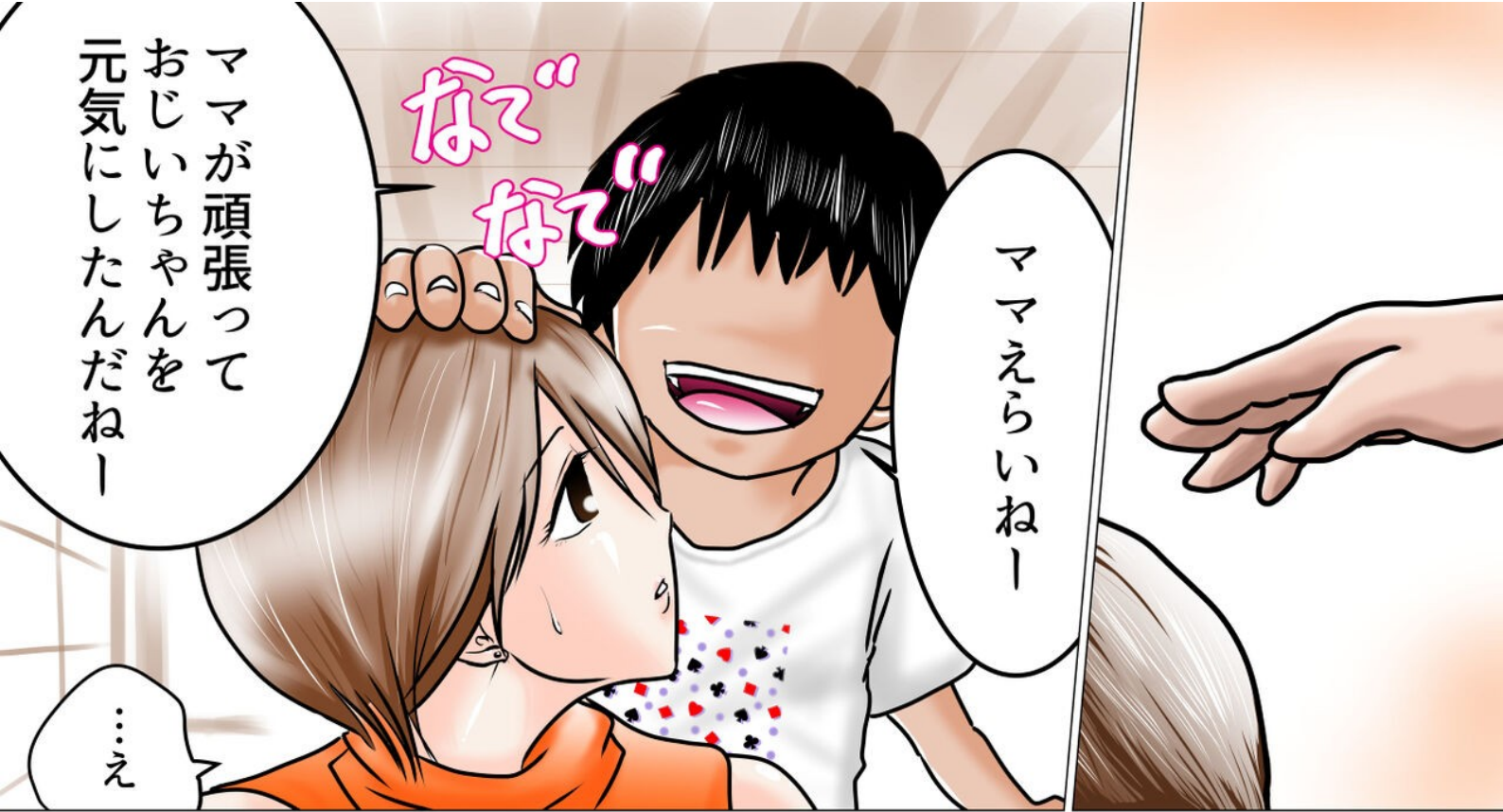
ひかりさん



やっと二人だけになれた…  
一年間本当に長かった…  
待ちわびたよ…  
この瞬間を…



つづく

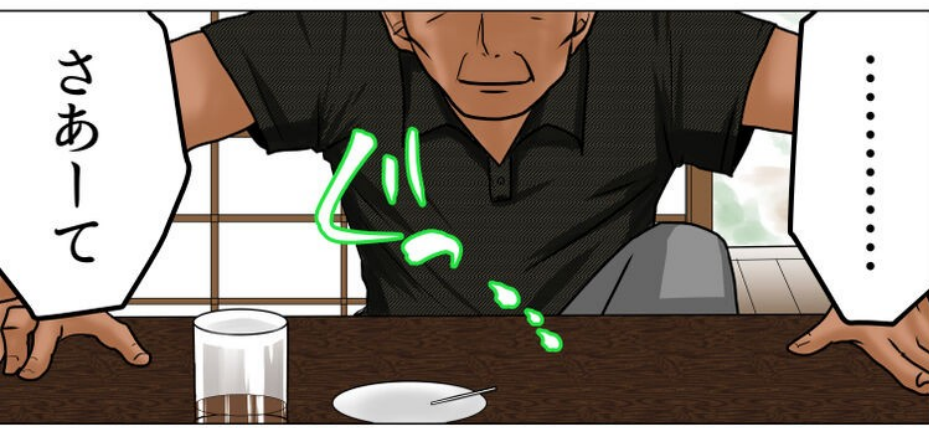


ママえらいねー

なて”  
なて”

ママが頑張っておじいちゃんを元気にしたんだねー

…え



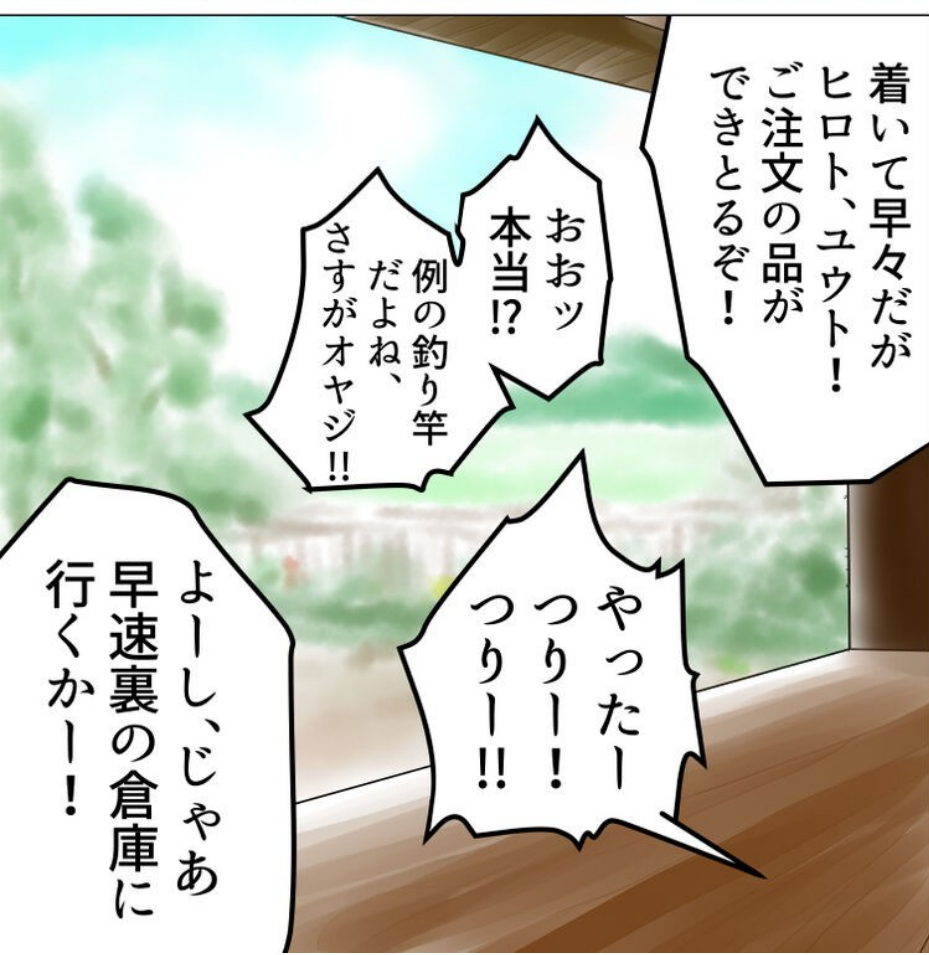
………

さあーて



あ…ありがとう  
ユウト  
でも…どうかな？

そうそうユウト  
もつとママをほめてあげて！  
なかなかできることじゃないよ実際  
さすが俺の嫁！感謝！なあオヤジ！



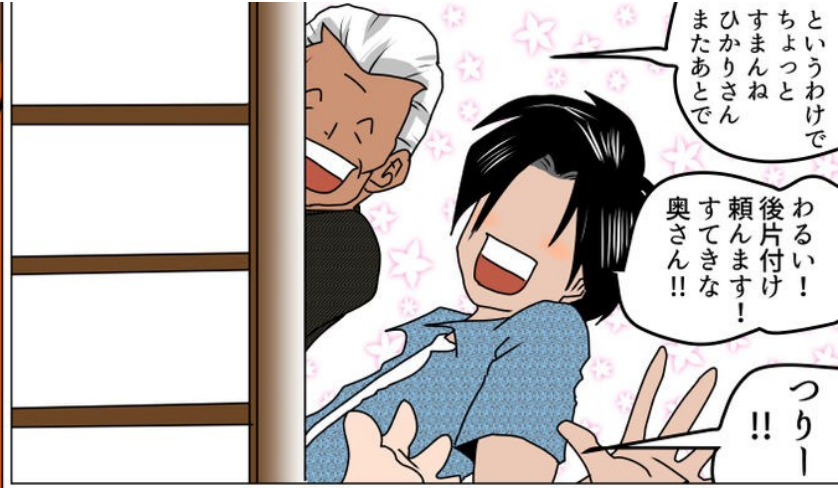
着いて早々だが  
ヒロト、ユウト！  
ご注文の品が  
できとるぞ！

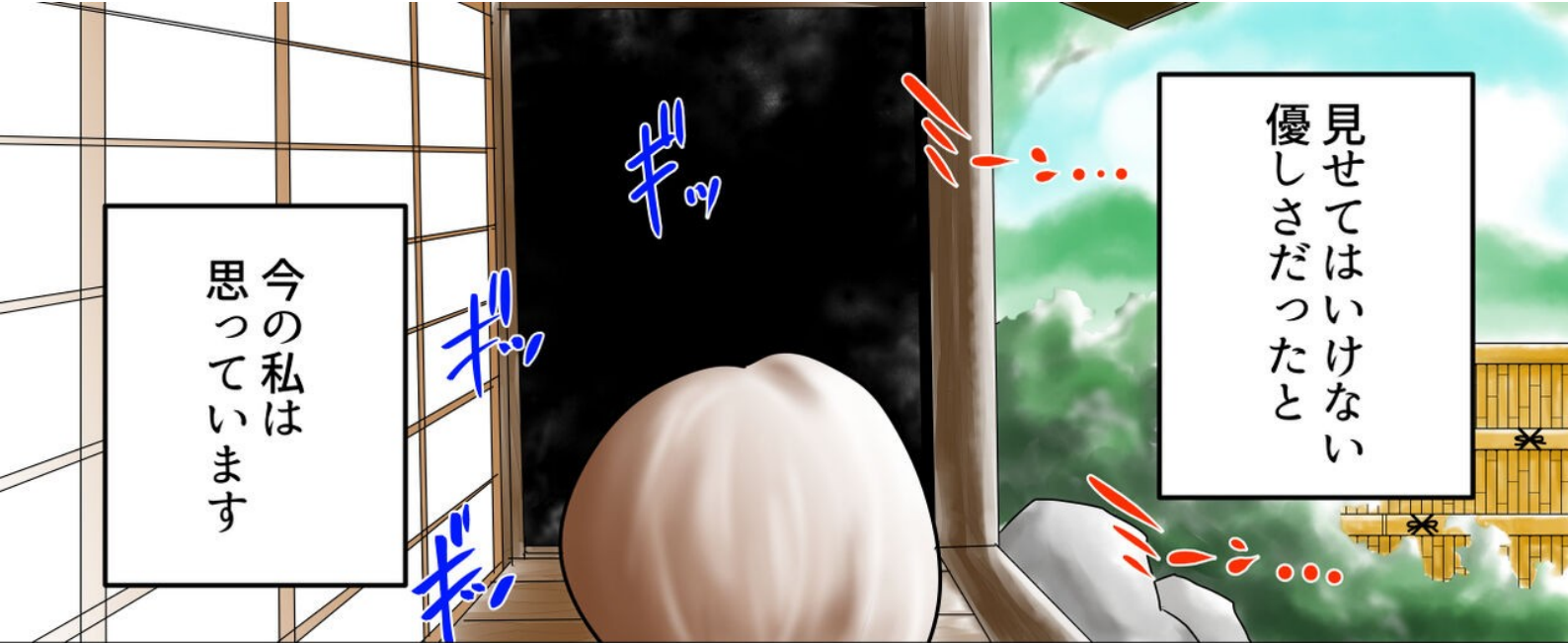
おおッ  
本当!?

例の釣り竿  
だよ、  
さすがオヤジ!!

やったー  
っりー！  
っりー!!

よーし、じゃあ  
早速裏の倉庫に  
行くかー！





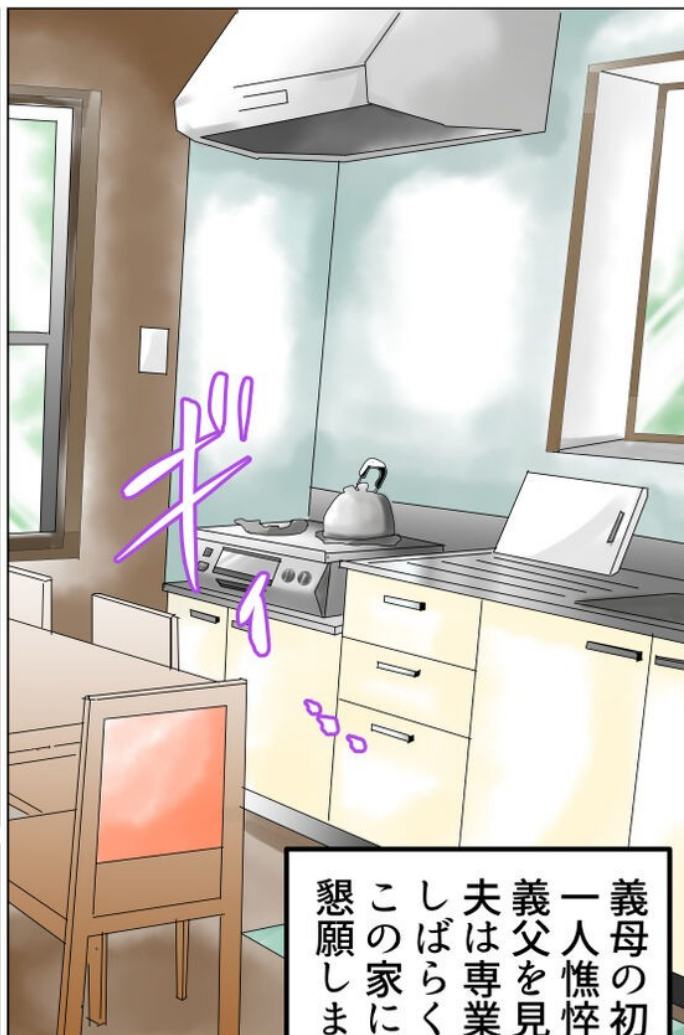
今の私は  
思っています

見せてはいけない  
優しさだったと

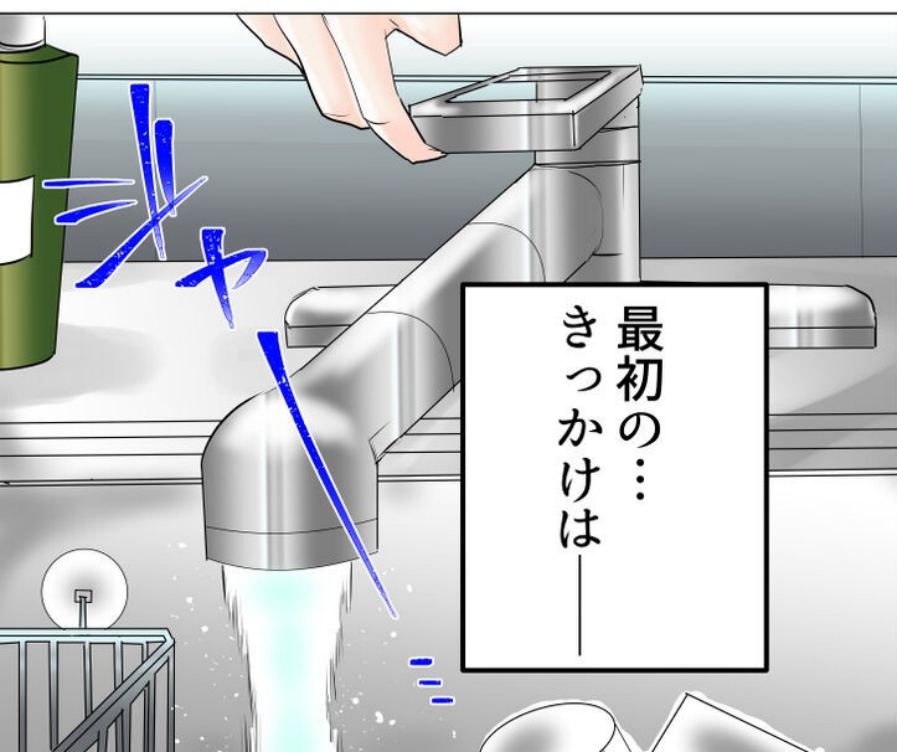


息子のヒロトは  
自宅マンションの  
近くに住む両親が  
私が留守の間  
面倒を見てくれた  
ことになりました

去年の夏のこと…  
そうして義父と私  
一つ屋根の下での  
生活が始まった  
のです

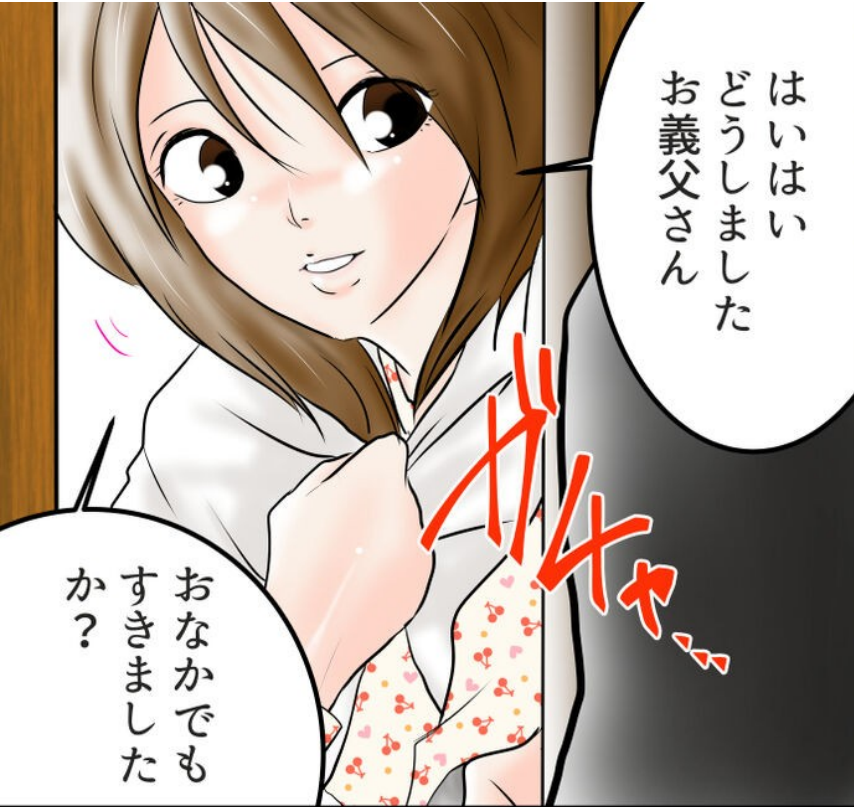


義母の初七日のあと  
一人憔悴しきっている  
義父を見かねて、  
夫は専業主婦の私に  
しばらくの間  
この家に残ってくれと  
懇願しました



最初の…  
きっかけは

涙にくれる義父と  
その義父を思う夫の愛情  
その時の私に断る理由は  
見つかりませんでした



はいはい  
どうしました  
お義父さん

おなかでも  
すきました  
か？



ひかりさん…  
ちよつといいかな…？

フ…  
フ…



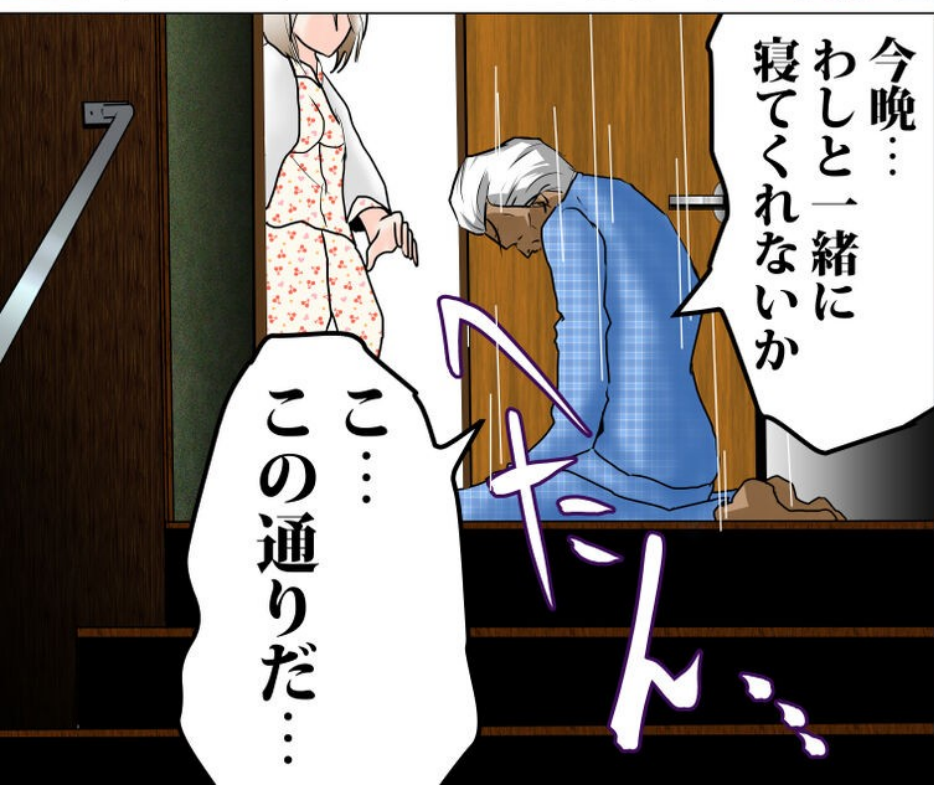
そ、それはいけませんね…  
でもお薬に頼るのは  
体にもあまりよくない  
でしょうし…そうだ、  
何か温かい飲み物でも

頼みがあるんだ  
ひかりさん…



すまんね  
こんな夜遅くに…  
食事じゃなくて…  
その…

ここ数日…  
ほとんど  
眠れなくてなあ…



今晚…  
わしと一緒に  
寝てくれないか

こ…  
この通りだ…

この時期の義父は  
ほとんど食事もとらず  
日がな  
ボーっと庭を眺め  
時折すすり泣き…  
日に日にやつれ  
衰えていくそんな  
義父を私はただ見守る  
しかできない日が  
続いていました

は…はあ…

ええ？

怖いんだ…一人が…  
こんな歳して  
みつともないと  
思うだろ…？  
でも…

不安で孤独で  
たまらんだよ…  
もう限界なんだ…  
だからその…同じ部屋で  
寝てはもらえんかと…

ああそういうことか…  
びっくりした…まあ…  
それくらいなら…

ありがとう…

ありがとう  
ひかりさん  
ありがとう…

……  
わかりましたよ  
お義父さん  
お布団敷きに  
お部屋に  
行きましようか

あのときの選択が  
正しかったか  
どうかは

足元  
気をつけて  
くださいね

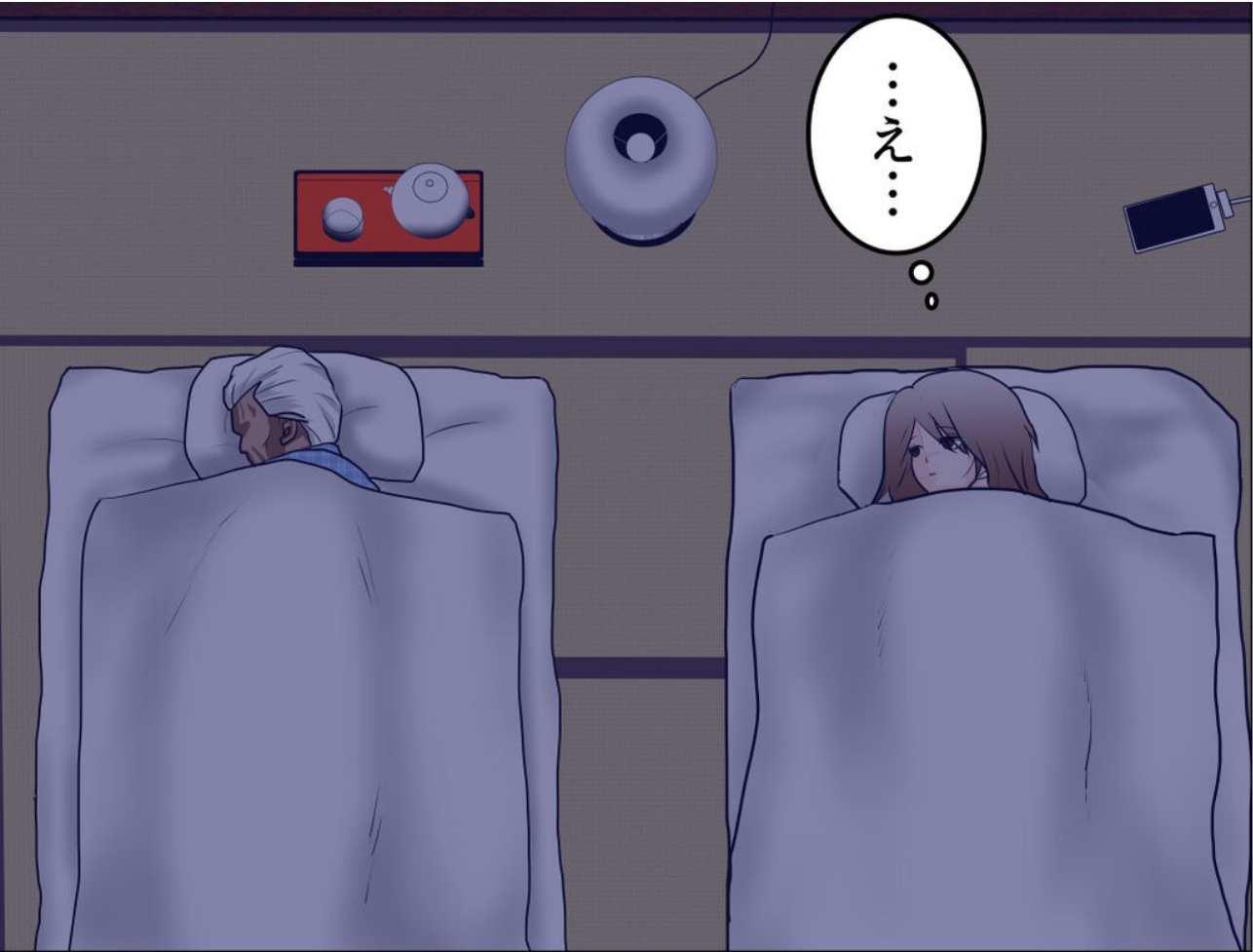
ああ…

いまだに  
答えが  
出ません

オッ…

オッ…

オッ…



…え…



な…なんとかか…  
なんとかか  
してあげなきゃ…

私が



お：  
お義父さん…

唐突に——  
経験したことの無い、  
胸を絞られるような  
感情が私を襲いました



夜中ふと  
目を覚ますと  
隣の義父が背を向け  
声を殺して  
泣いていました